

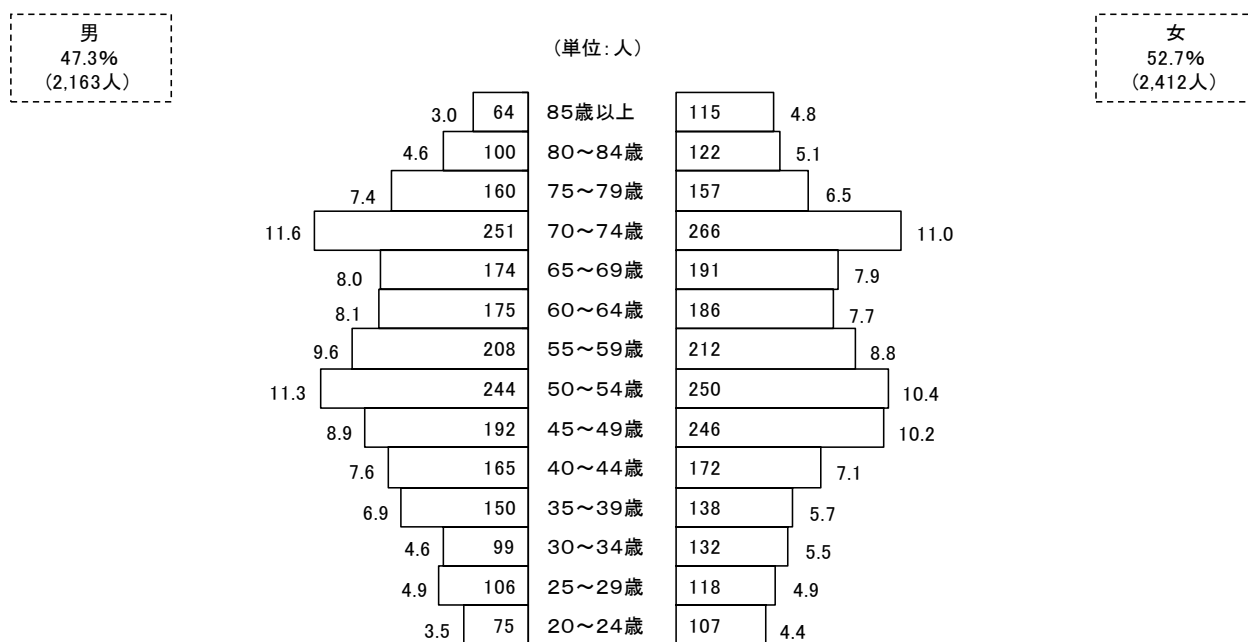
第2部 福祉のまちづくり等に関する実態と意識

本調査の「福祉のまちづくり等に関する実態と意識票」は、調査対象者の福祉のまちづくり、子育て支援、障害者支援、地域福祉等に関する意識について、調査したものである。

集計対象世帯 2,725 世帯の満 20 歳以上の世帯員 5,042 人を調査対象とし、4,581 人から回答を得た。

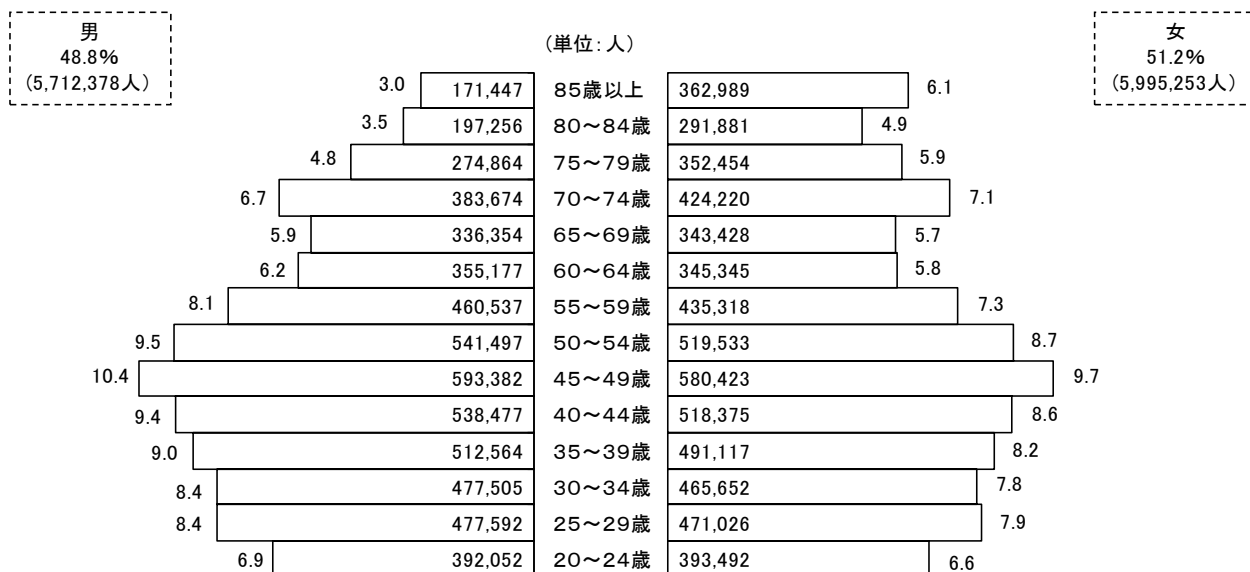
回答者の性・年齢階級の内訳については、次のとおりである。(図Ⅱ-1)

図Ⅱ-1 回答者の性・年齢階級



(注) 性別「その他」は、該当者が6人のため省略した(以降の性別の項目も同様)。

《参考》住民基本台帳による東京都の世帯と人口(令和3年1月1日現在・東京都総務局)を基に作成



第1章 東京の福祉のまちづくり

1 東京の福祉のまちづくりの印象

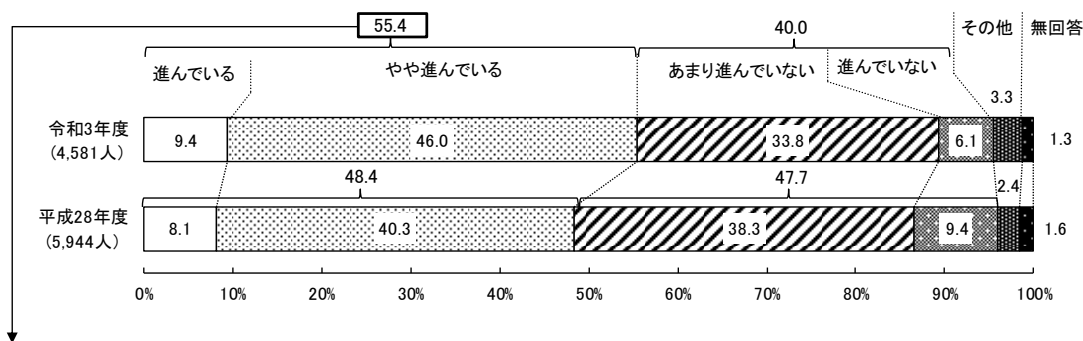
(1) 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況とバリアフリー化が進んだ点

平成28年度調査よりも「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合は7.0ポイント増加

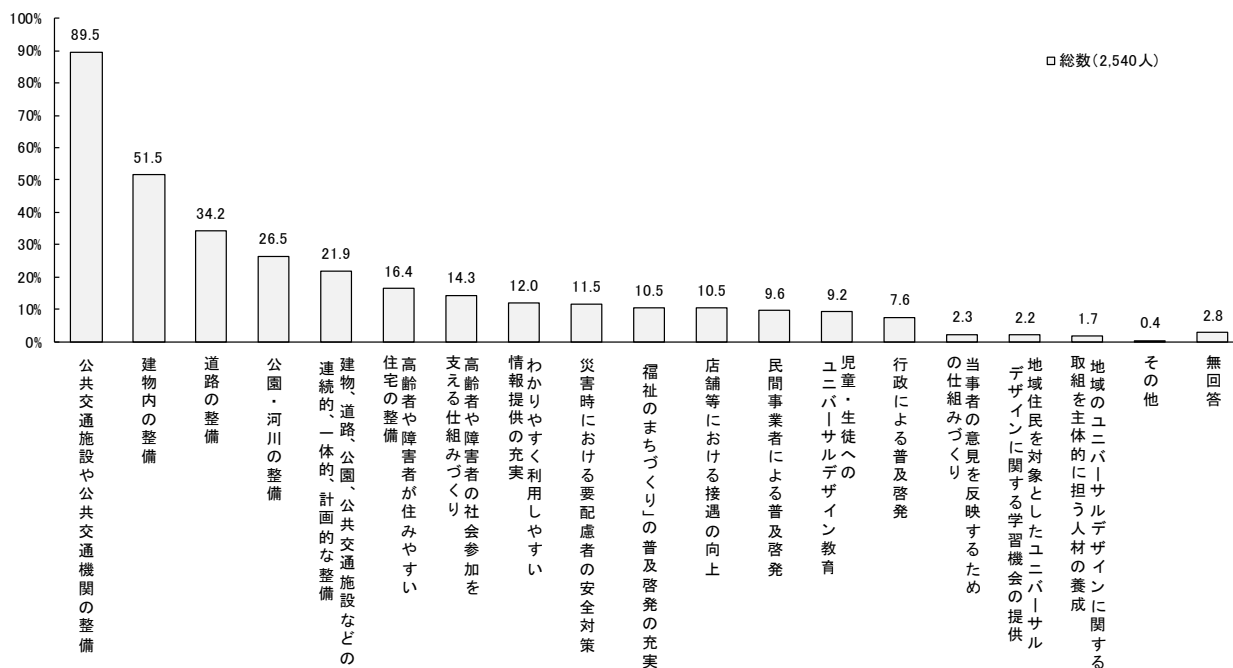
現在の東京のまちにおける建物、道路、駅、電車などの施設や設備のバリアフリー化の状況について聞いたところ、「進んでいる」(9.4%)と「やや進んでいる」(46.0%)を合わせた割合は55.4%で、平成28年度調査と比べて7.0ポイント増加している。一方、「進んでいない」(6.1%)と「あまり進んでいない」(33.8%)を合わせた割合は40.0%となっている。(図Ⅱ-1-1)

また、バリアフリー化が「進んでいる」又は「やや進んでいる」と回答した人(2,540人)に、バリアフリー化が進んだ点を聞いたところ、「公共交通施設や公共交通機関の整備」の割合が89.5%で最も高く、次いで「建物内の整備(出入口等の幅の確保、スロープの設置)」が51.5%となっている。(図Ⅱ-1-2)

図Ⅱ-1-1 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況



図Ⅱ-1-2 バリアフリー化が進んだ点(複数回答)

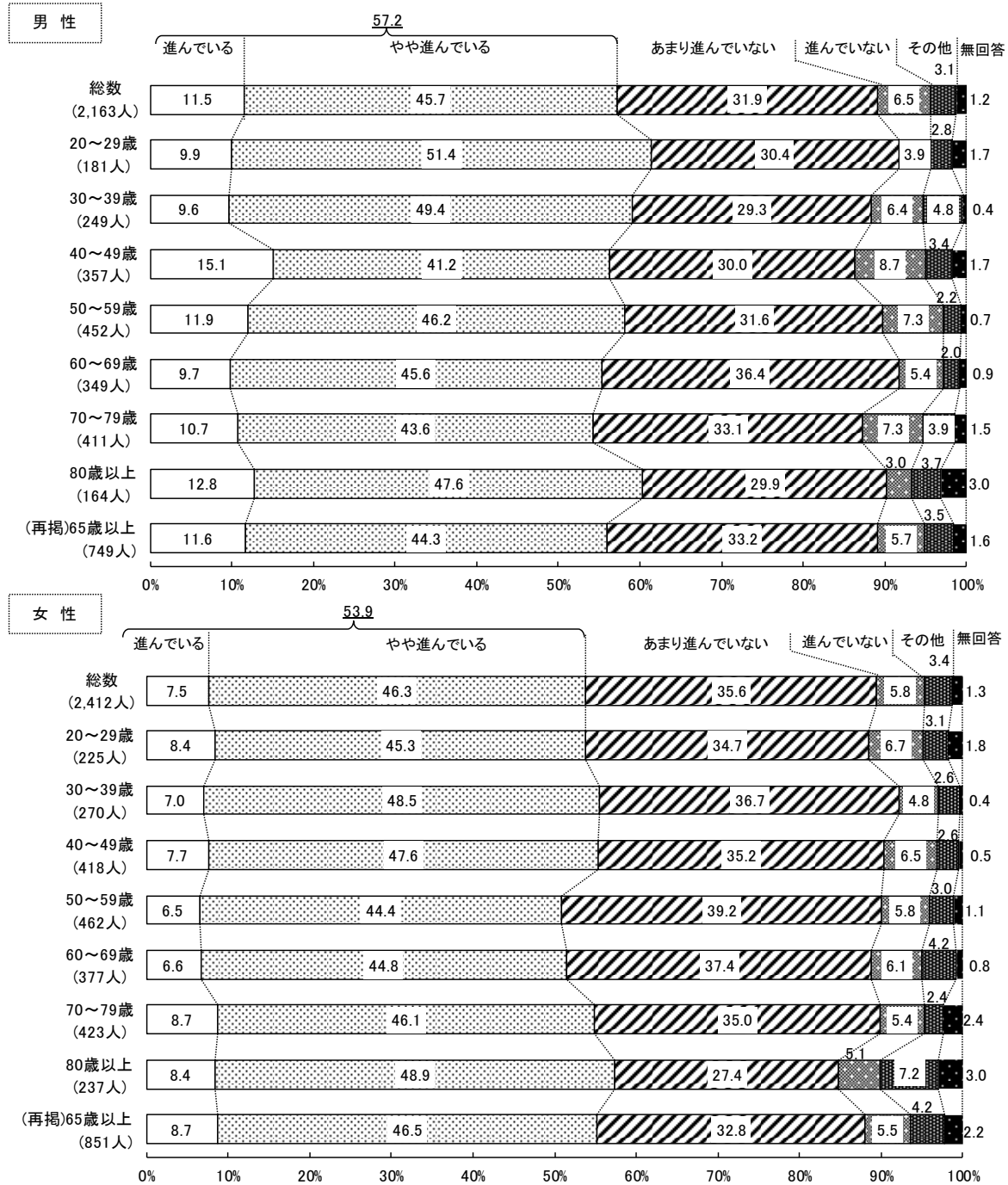


(注1) 図Ⅱ-1-2 バリアフリー化が進んだ点について平成28年度調査では、質問を設けていなかった。

ア 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－性・年齢階級別

東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況を性別でみると、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合は男性 57.2%、女性 53.9%となっている、(図Ⅱ-1-3)

図Ⅱ-1-3 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－性・年齢階級別



イ 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況―地域別

区東部では、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合の方が6割超

東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況を地域別にみると、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合は、区部 56.6%、市町村部 53.2%となっている。また、区東部は「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合が 61.2%で、6割を超えている。
(表Ⅱ-1-1)

表Ⅱ-1-1 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況―地域別

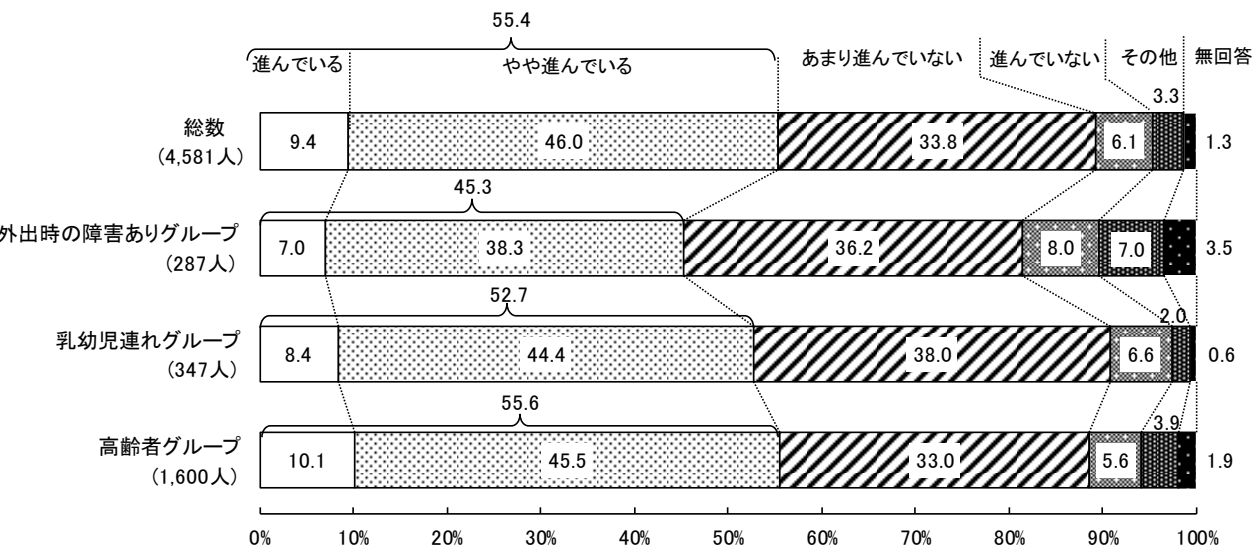
	総 数	進 ん で い る	やや 進 ん で い る	あ ま り 進 ん で い な い	進 ん で い な い	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	9.4	46.0	33.8	6.1	3.3	1.3
区部 計	100.0 (3,054)	10.1	46.5	33.1	5.8	3.0	1.4
		56.6					
区中央部	100.0 (321)	8.4	51.1	30.8	6.5	1.9	1.2
区南部	100.0 (394)	8.6	46.7	34.3	5.1	3.8	1.5
区西南部	100.0 (440)	13.2	46.6	32.5	5.9	1.6	0.2
区西部	100.0 (426)	7.5	46.7	33.8	7.3	3.5	1.2
区西北部	100.0 (703)	9.2	44.0	36.6	4.8	3.4	2.0
区東北部	100.0 (350)	11.7	43.7	31.1	7.4	4.0	2.0
区東部	100.0 (420)	12.1	49.0	29.5	4.8	2.9	1.7
		61.2					
市町村部 計	100.0 (1,527)	8.1	45.1	35.3	6.7	3.8	1.0
		53.2					
西多摩	100.0 (121)	9.9	41.3	40.5	3.3	4.1	0.8
南多摩	100.0 (521)	9.6	44.3	35.5	6.5	3.5	0.6
北多摩西部	100.0 (281)	6.4	45.2	37.0	5.3	5.3	0.7
北多摩南部	100.0 (349)	5.4	45.3	36.7	8.3	2.6	1.7
北多摩北部	100.0 (255)	9.4	48.2	28.6	8.2	4.3	1.2

ウ 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－外出時グループ別

「外出時の障害ありグループ」は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合が45.3%で、総数と比べて10.1ポイント低い

東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合が45.3%で、総数（55.4%）と比べて、10.1ポイント低くなっている。（図Ⅱ-1-4）

図Ⅱ-1-4 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－外出時グループ別



（注）外出時グループは、101 頁を参照。

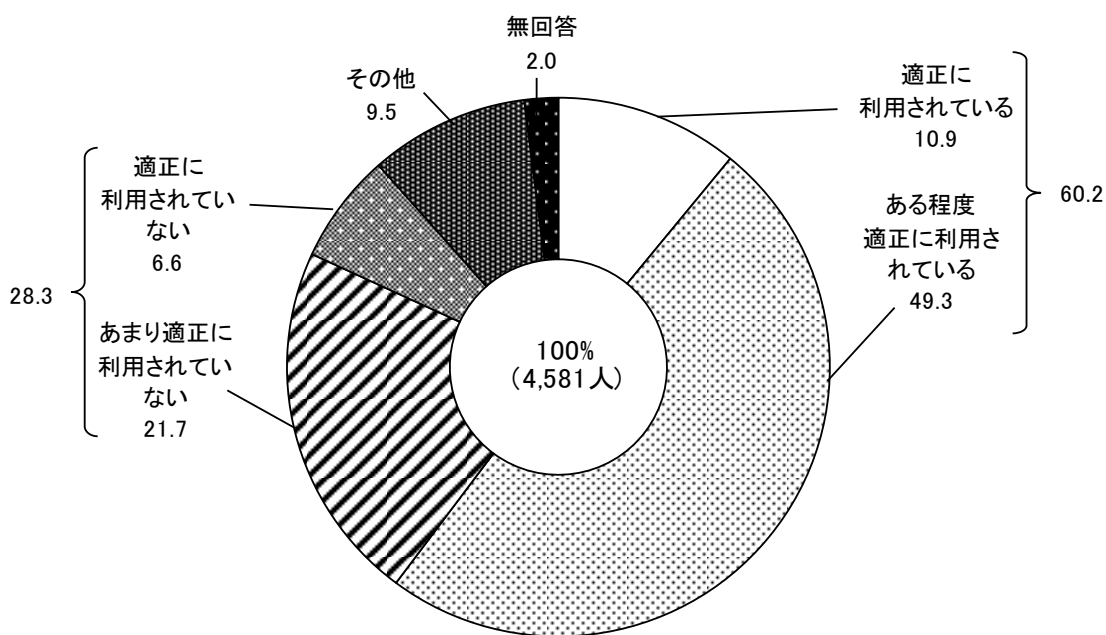
(2) 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象

車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象について、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、60.2%

現在の東京のまちにおける、車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等について、どのような印象を持っているか聞いたところ、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は60.2%となっている。

一方、「適正に利用されていない」と「あまり適正に利用されていない」を合わせた割合は28.3%となっている。(図Ⅱ-1-5)

図Ⅱ-1-5 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象



(注)「適正に利用されていない」状況については、調査票では以下のとおりに案内している

- ・通常の駐車スペースで乗り降りできる人が幅の広い駐車スペースに駐車しているために、車いす使用者等が駐車できない状態。

ア 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象－性・年齢階級別

車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象を性・年齢階級別にみると、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、男性 58.8%、女性 61.4%となっている。（表Ⅱ-1-2）

表Ⅱ-1-2 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象－性・年齢階級別

	総 数	適 正 に 利 用 さ れ て い る	あ る 程 度 適 正 に 利 用 さ れ て い る	あ ま り 適 正 に 利 用 さ れ て い な い	適 正 に 利 用 さ れ て い な い	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	10.9	49.3	21.7	6.6	9.5	2.0
男	100.0 (2,163)	11.3	47.5	23.9	7.5	8.1	1.6
		58.8					
20～29歳	100.0 (181)	17.1	48.1	21.0	7.2	5.5	1.1
30～39歳	100.0 (249)	14.5	48.6	19.3	6.0	11.6	—
40～49歳	100.0 (357)	12.9	48.5	21.8	6.4	9.5	0.8
50～59歳	100.0 (452)	11.1	49.1	25.0	8.4	5.5	0.9
60～69歳	100.0 (349)	10.9	47.6	25.2	7.7	7.4	1.1
70～79歳	100.0 (411)	8.0	44.0	27.7	8.5	8.5	3.2
80歳以上	100.0 (164)	6.7	47.0	23.8	6.7	10.4	5.5
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	8.4	45.4	25.9	8.0	9.1	3.2
女	100.0 (2,412)	10.4	51.0	19.7	5.8	10.7	2.4
		61.4					
20～29歳	100.0 (225)	20.4	49.8	13.8	3.1	12.0	0.9
30～39歳	100.0 (270)	9.3	57.4	18.9	3.3	10.4	0.7
40～49歳	100.0 (418)	9.6	56.2	16.5	6.0	10.5	1.2
50～59歳	100.0 (462)	8.2	53.9	19.7	6.9	11.0	0.2
60～69歳	100.0 (377)	11.1	50.1	22.5	5.0	10.1	1.1
70～79歳	100.0 (423)	9.9	48.2	22.5	6.6	8.7	4.0
80歳以上	100.0 (237)	8.0	35.9	22.4	8.4	14.3	11.0
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	9.9	45.1	22.4	6.8	10.3	5.4

イ 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象―地域別

車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象を地域別にみると、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、区部は 59.1%、市町村部は 62.3% となっている。(表Ⅱ-1-3)

表Ⅱ-1-3 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象―地域別

	総 数	適 正 に 利 用 さ れ て い る	あ る 程 度 適 正 に 利 用 さ れ て い る	あ ま り 適 正 に 利 用 さ れ て い な い	適 正 に 利 用 さ れ て い な い	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	10.9	49.3	21.7	6.6	9.5	2.0
区部 計	100.0 (3,054)	10.3	48.8	21.5	6.3	10.8	2.3
		59.1					
区中央部	100.0 (321)	10.6	47.0	18.4	5.3	15.6	3.1
区南部	100.0 (394)	12.9	50.3	18.3	6.6	9.4	2.5
区西南部	100.0 (440)	13.0	50.5	18.2	5.7	11.4	1.4
区西部	100.0 (426)	10.3	47.7	20.9	4.9	14.8	1.4
区西北部	100.0 (703)	8.7	48.9	24.9	6.0	9.1	2.4
区東北部	100.0 (350)	8.3	46.6	23.7	9.1	9.7	2.6
区東部	100.0 (420)	9.5	49.8	23.8	6.7	7.6	2.6
市町村部 計	100.0 (1,527)	12.0	50.3	21.9	7.3	6.9	1.5
		62.3					
西多摩	100.0 (121)	16.5	47.9	26.4	6.6	1.7	0.8
南多摩	100.0 (521)	13.4	54.1	17.7	6.1	7.3	1.3
北多摩西部	100.0 (281)	10.3	47.7	27.0	7.5	5.7	1.8
北多摩南部	100.0 (349)	8.9	50.1	21.5	9.7	7.7	2.0
北多摩北部	100.0 (255)	13.3	46.7	23.5	6.3	9.0	1.2

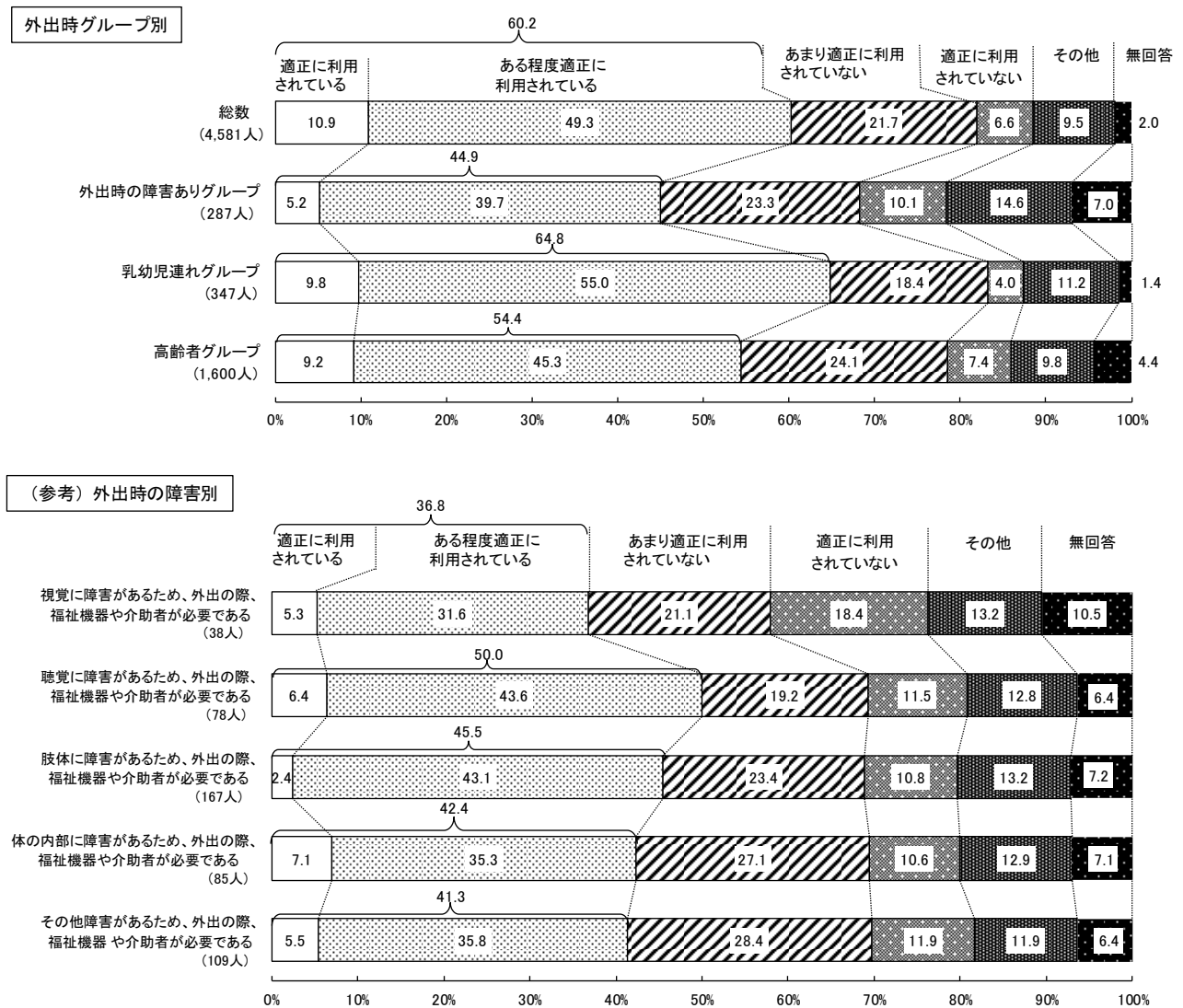
ウ 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象－外出時グループ、外出時の障害別

外出時の障害ありグループでは、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合が44.9%で、総数に比べて15.3ポイント低い

車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象を外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループでは、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合が44.9%で、総数（60.2%）に比べて15.3ポイント低くなっている。（図Ⅱ-1-6）

図Ⅱ-1-6 車いす使用者等の駐車スペースの利用状況等の印象

－外出時グループ、外出時の障害別



(注) 外出時グループ、外出時の障害は、101 頁を参照。

2 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

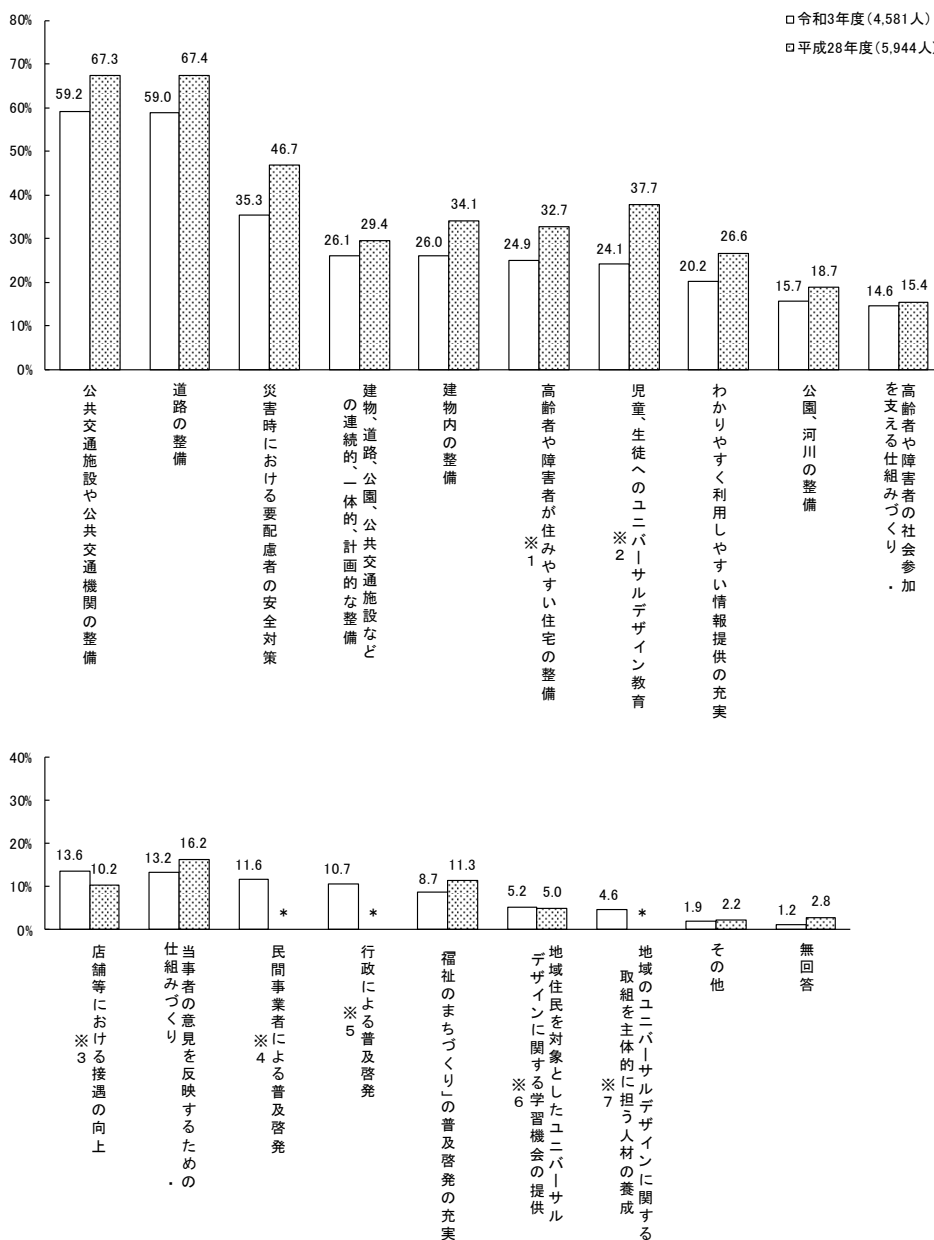
ー平成 28 年度調査との比較

「道路の整備」、「公共交通施設や公共交通機関の整備」の割合がそれぞれ約 6 割

今後「ユニバーサルデザインの理念に基づいた福祉のまちづくり」を進めていくにあたり、東京都が特に重点をおいて取り組む必要があるものを聞いたところ、「公共交通施設や公共交通機関の整備」の割合が 59.2%、「道路の整備」が 59.0%となっている。（図Ⅱ-1-7）

図Ⅱ-1-7 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

ー平成 28 年度調査との比較



（注1）※1は、平成 28 年度調査では「高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備」としていた。

（注2）※2は、平成 28 年度調査では「学校におけるユニバーサルデザイン教育等の推進」としていた。

（注3）※3は、平成 28 年度調査では「民間事業者による従業員を対象とした接客対応向上等のための研修の実施」としていた。

（注4）※4、5、7は、平成 28 年度調査では選択肢を設けていなかった。

（注5）※6は、平成 28 年度調査では「地域住民を対象にしたユニバーサルデザインに関するセミナー・ワークショップの推進」としていた。

(1) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

男女ともにすべての年代において、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを性・年齢階級別にみると、男女ともにすべての年代で、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高くなっている。

また、「災害時における要配慮者の安全対策」の割合は、男性は 31.6%、女性は 38.6%で、女性の方が 7.0 ポイント高くなっている。(表Ⅱ-1-4)

表Ⅱ-1-4 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	公共交通施設や公共交通機関の整備	建物内の整備	道路の整備	公園・河川の整備	建物的、道路、公園、計画的な整備	高齢者や障害者が住みやすい住宅の整備	高齢者や障害者の社会参加を支える仕組みづくり	災害時における要配慮者の安全対策	わかりやすく利用しやすい情報提供の充実	「福祉のまちづくり」の普及啓発の充実	当事者の意見を反映するための仕組みづくり	児童・生徒へのユニバーサルデザイン教育	地域住民を対象としたユニバーサルデザインに関する学習機会の提供	地域のユニバーサルデザインに関する取組を主体的に担う人材の養成	店舗等における接遇の向上	民間事業者による普及啓発	行政による普及啓発	その他	無回答
総数	100.0 (4,581)	59.2	26.0	59.0	15.7	26.1	24.9	14.6	35.3	20.2	8.7	13.2	24.1	5.2	4.6	13.6	11.6	10.7	1.9	8.6
男	100.0 (2,163)	<u>58.6</u>	26.7	<u>58.7</u>	16.5	27.0	24.3	12.9	<u>31.6</u>	20.1	9.5	11.9	23.5	4.5	4.7	11.8	12.0	12.5	2.1	9.2
20～29歳	100.0 (181)	<u>56.9</u>	33.1	<u>55.2</u>	9.9	27.1	14.4	12.2	24.9	18.2	6.6	12.7	30.9	4.4	3.9	13.8	10.5	10.5	2.2	6.6
30～39歳	100.0 (249)	<u>58.6</u>	28.1	<u>51.8</u>	17.7	28.5	15.7	9.6	26.1	18.9	6.4	10.8	32.5	3.6	3.6	11.2	15.3	14.5	2.0	7.2
40～49歳	100.0 (357)	<u>53.8</u>	26.6	<u>56.3</u>	18.5	24.6	17.9	14.0	29.1	20.2	6.7	11.8	27.5	5.0	4.8	9.8	14.3	14.8	2.8	9.5
50～59歳	100.0 (452)	<u>66.6</u>	28.8	<u>64.2</u>	14.2	25.4	23.9	13.9	32.1	22.6	9.5	13.9	24.8	4.4	3.8	13.1	11.7	8.8	1.8	7.7
60～69歳	100.0 (349)	<u>56.7</u>	29.2	<u>59.3</u>	14.3	30.7	27.5	14.3	37.2	21.5	9.7	14.0	19.5	5.2	6.3	13.2	11.5	13.8	2.3	9.7
70～79歳	100.0 (411)	<u>59.6</u>	21.9	<u>61.8</u>	20.4	26.5	34.1	12.4	33.8	18.2	13.6	8.5	18.2	5.1	6.3	11.4	10.5	12.2	1.2	10.2
80歳以上	100.0 (164)	<u>50.0</u>	18.3	<u>53.7</u>	18.3	26.8	32.3	11.0	33.5	18.9	12.2	11.0	11.0	1.8	1.8	9.1	9.1	15.2	3.0	14.0
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	56.1	23.4	60.1	18.3	26.8	32.0	12.4	35.0	19.0	12.3	10.4	16.6	4.1	5.7	11.2	10.9	13.9	2.3	10.9
女	100.0 (2,412)	<u>59.8</u>	25.5	<u>59.3</u>	15.0	25.4	25.5	16.0	<u>38.6</u>	20.3	7.9	14.2	24.7	5.8	4.6	15.3	11.3	9.0	1.7	8.1
20～29歳	100.0 (225)	<u>60.9</u>	29.8	<u>44.4</u>	14.2	17.3	12.4	13.8	37.3	24.9	6.2	12.0	27.1	7.1	4.4	15.6	10.2	7.1	2.2	8.9
30～39歳	100.0 (270)	<u>65.9</u>	34.4	<u>57.4</u>	17.4	32.6	14.4	13.0	37.0	23.7	5.9	14.4	31.5	3.0	4.4	14.4	13.0	8.5	2.6	5.6
40～49歳	100.0 (418)	<u>60.0</u>	26.3	<u>56.9</u>	12.9	30.1	21.8	16.0	39.0	17.2	5.7	14.8	30.9	4.8	3.3	15.6	14.1	7.4	2.4	6.9
50～59歳	100.0 (462)	<u>63.0</u>	28.8	<u>64.3</u>	12.8	27.3	29.4	20.8	38.3	18.6	7.1	15.2	26.6	5.2	3.9	17.3	11.7	10.2	1.3	6.1
60～69歳	100.0 (377)	<u>61.3</u>	24.9	<u>63.4</u>	19.1	26.8	33.7	17.8	43.0	18.3	9.8	15.6	20.2	7.2	5.3	14.6	10.6	9.0	1.3	6.1
70～79歳	100.0 (423)	<u>54.4</u>	18.7	<u>65.7</u>	14.2	25.1	31.0	15.4	39.7	24.1	10.6	13.2	21.7	8.0	5.4	16.1	9.7	10.6	0.9	7.6
80歳以上	100.0 (237)	<u>52.3</u>	16.0	<u>51.9</u>	16.0	11.0	26.2	10.5	32.9	17.3	9.3	12.7	12.2	4.6	6.3	11.0	8.4	8.4	1.7	20.3
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	54.1	18.8	61.1	15.6	20.8	30.4	14.2	38.7	21.4	10.7	12.8	18.7	7.2	5.8	15.2	9.8	10.1	1.3	10.7

(2) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕－外出時グループ別

乳幼児連れグループは、「建物、道路、公園、公共交通施設などの連続的、一体的、計画的な整備」の割合が、総数に比べて高い

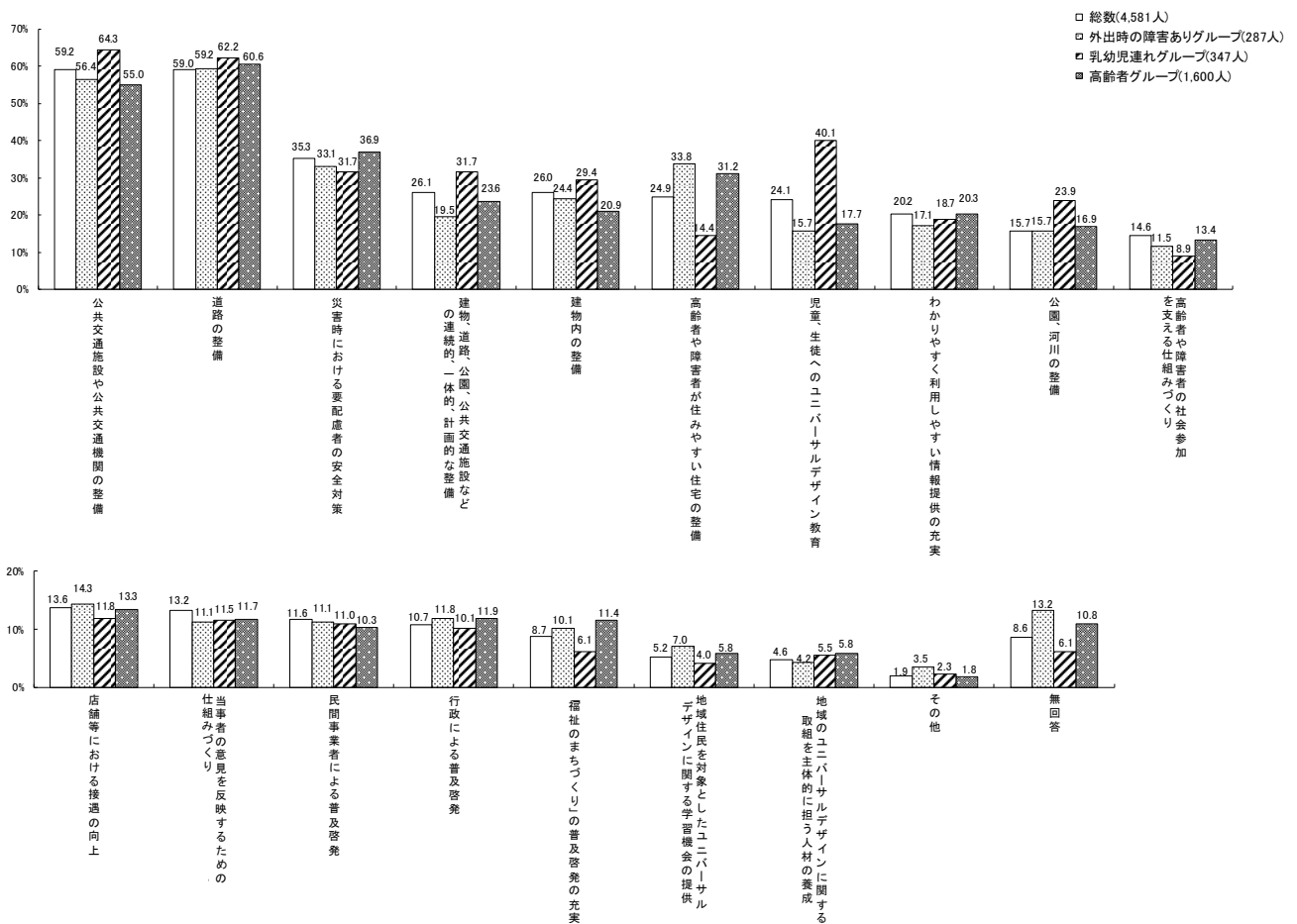
福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループでは、「高齢者や障害者が住みやすい住宅の整備」の割合が 33.8%で、総数（24.9%）に比べて、8.9 ポイント高くなっている。

乳幼児連れグループでは、「児童、生徒へのユニバーサルデザイン教育」の割合が 40.1%、「公園、河川の整備」が 23.9%で、それぞれ総数（24.1%、15.7%）に比べて、16.0 ポイント、8.2 ポイント高くなっている。

高齢者グループでは、「高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備」の割合が 31.2%で、総数（24.9%）に比べて、6.3 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-8）

図Ⅱ-1-8 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－外出時グループ別



(注) 外出時グループは、101 頁を参照。

(3) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－外出時の障害別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

すべての障害において、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合は高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを外出時の障害の有無別にみると、すべての障害において、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高くなっている。また、肢体、体の内部に障害がある人では、「高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備」の割合がいずれも 36.5%で、総数（24.9%）に比べて 11.6 ポイント高くなっている。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由による支援や理解の必要がある人は、「道路の整備」の割合が 59.3%で最も高く、次いで「公共交通施設や公共交通機関の整備」が 51.2%、「高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備」が 31.1%となっている。（表Ⅱ-1-5）

表Ⅱ-1-5 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－外出時の障害別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

		総数	公共交通施設や公共交通機関の整備	建物内の整備	道路の整備	公園・河川の整備	連続的、一体的、計画的な整備施設などの整備	高齢者や障害者が住みやすい住宅の整備	高齢者や障害者の社会参加を支える仕組みづくり	災害時における要配慮者の安全対策	わかりやすく利用しやすい情報提供の充実	「福祉のまちづくり」の普及啓発の充実	当事者の意見を反映するための仕組みづくり	児童・生徒へのユニバーサルデザイン教育	地域住民を対象としたユニバーサルデザインに関する学習機会の提供	地域主体的に担う人材の養成	店舗等における接遇の向上	民間事業者による普及啓発	行政による普及啓発	その他	無回答
総数		100.0 (4,581)	59.2	26.0	59.0	15.7	26.1	24.9	14.6	35.3	20.2	8.7	13.2	24.1	5.2	4.6	13.6	11.6	10.7	1.9	8.6
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (287)	56.4	24.4	59.2	15.7	19.5	33.8	11.5	33.1	17.1	10.1	11.1	15.7	7.0	4.2	14.3	11.1	11.8	3.5	13.2
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (38)	47.4	23.7	50.0	18.4	13.2	34.2	7.9	39.5	10.5	10.5	2.6	7.9	-	-	7.9	10.5	7.9	2.6	23.7
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (78)	57.7	17.9	61.5	14.1	23.1	32.1	11.5	38.5	28.2	12.8	19.2	19.2	3.8	7.7	17.9	10.3	6.4	2.6	7.7
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (167)	56.3	27.5	59.3	17.4	18.0	36.5	10.2	34.1	13.2	10.8	9.0	11.4	7.8	3.6	14.4	13.2	13.2	2.4	14.4
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (85)	55.3	27.1	56.5	15.3	16.5	36.5	8.2	27.1	15.3	15.3	9.4	17.6	5.9	-	16.5	14.1	14.1	7.1	10.6
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (109)	57.8	29.4	64.2	16.5	20.2	31.2	11.0	27.5	11.9	9.2	7.3	13.8	9.2	3.7	17.4	11.0	13.8	0.9	14.7
	外出時に障害がない	100.0 (4,259)	59.5	26.2	59.1	15.7	26.6	24.2	14.7	35.5	20.5	8.5	13.3	24.8	5.1	4.7	13.7	11.7	10.6	1.8	8.2
表に外性よ出る時の無回答や理由不明	何らかの理由による支援や理解が必要あり	100.0 (209)	51.2	23.9	59.3	19.6	15.8	31.1	16.3	28.7	12.9	6.7	14.8	16.3	6.2	2.9	14.4	10.5	10.0	7.7	12.0
	必要としない	100.0 (4,328)	59.7	26.2	59.1	15.5	26.7	24.5	14.5	35.7	20.6	8.7	13.1	24.7	5.2	4.7	13.6	11.7	10.7	1.6	8.3

第2章 日常よく出かけるところに着くまでのバリア

1 外出時の状況等

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は 6.3%

外出時の状況等（8項目）について聞いたところ、(1)～(5)の項目を合わせた「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は 6.3%、「何らかの理由があるために、外出の際、周囲の支援や理解を必要である」人の割合は 4.6%となっている。

また、「乳幼児を連れて外出することがある」人の割合は 7.6%となっている。（表Ⅱ-2-1）

表Ⅱ-2-1 外出時の状況等

		総 数	は い	い い え	無 回 答
何らかの障害があるために、 外出の際、福祉機器や 介助者が必要である 6.3 (287人)	(1)視覚に障害があるため、外出の際、 福祉機器や介助者が必要である	100.0 (4,581)	0.8	98.3	0.9
	(2)聴覚に障害があるため、外出の際、 福祉機器や介助者が必要である	100.0 (4,581)	1.7	97.5	0.8
	(3)肢体に障害があるため、外出の際、 福祉機器や介助者が必要である	100.0 (4,581)	3.6	95.6	0.7
	(4)体の内部に障害があるため、外出の際、 福祉機器や介助者が必要である	100.0 (4,581)	1.9	97.3	0.8
	(5)その他障害があるため、外出の際、 福祉機器や介助者が必要である	100.0 (4,581)	2.4	96.7	0.9
	(6)何らかの理由があるため、外出の際、 周囲の支援や理解を必要である	100.0 (4,581)	<u>4.6</u>	94.5	1.0
	(7)乳幼児を連れて外出することがある	100.0 (4,581)	<u>7.6</u>	91.4	1.0
	(8)現在妊娠している	100.0 (2,412)	0.8	96.1	3.2

（注）「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」の人数は、(1)～(5)の項目のいずれかひとつ以上に「はい」と答えた者の合計である。

「外出時の状況等」と「年齢」から、「外出時グループ」として、以下のとおり3つに区分した。

外出時グループ（3区分）

外出時の障害あり グループ	外出時の状況等(1)～(5)いずれかひとつ以上に「はい」と答えた者(287人) ※上記「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」と同じ
乳幼児連れグループ	外出時の状況等(7)に「はい」と答えた者(347人)
高齢者グループ	年齢が65歳以上の者(1,600人)

(1) 外出時の状況等（外出時の障害の有無）－性・年齢階級別

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は、80歳以上では、男性 24.4%、女性 37.6%

外出時の状況等（福祉機器や介助者の必要性の有無）を性・年齢階級別にみると、「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は、80歳以上では、男性 24.4%、女性 37.6%となっている。また、外出時の障害の内訳をみると、70歳以上では、男女ともに「肢体に障害がある」人の割合が最も高くなっている。（表Ⅱ-2-2）

表Ⅱ-2-2 外出時の状況等（外出時の障害の有無）－性・年齢階級別

	総数	何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	(1) 視覚に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(2) 聴覚に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(3) 肢体に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(4) 体の内部に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(5) その他の障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	必要ない	無回答
総数	100.0 (4,581)	6.3	0.8	1.7	3.6	1.9	2.4	93.0	0.8
男	100.0 (2,513)	5.3	0.7	31.0	3.0	1.7	1.4	94.0	0.7
20～29歳	100.0 (176)	2.8	－	－	1.7	－	2.2	97.2	－
30～39歳	100.0 (248)	0.8	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	98.8	0.4
40～49歳	100.0 (357)	2.5	0.8	0.8	1.1	0.3	2.0	97.5	－
50～59歳	100.0 (452)	2.2	0.2	0.7	0.9	1.3	0.9	96.9	0.9
60～69歳	100.0 (705)	2.6	－	0.6	1.7	1.4	1.1	96.3	1.1
70～79歳	100.0 (411)	9.7	1.2	2.7	<u>5.4</u>	3.6	2.7	89.1	1.2
80歳以上	100.0 (164)	<u>24.4</u>	3.0	6.1	<u>14.6</u>	5.5	7.3	75.0	0.6
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	11.6	1.3	3.1	6.8	3.7	3.5	87.2	1.2
女	100.0 (2,392)	7.1	1.0	1.9	4.3	2.0	2.7	92.0	0.8
20～29歳	100.0 (225)	2.2	0.4	0.4	－	1.3	1.8	97.3	0.4
30～39歳	100.0 (270)	2.2	0.4	0.7	0.4	0.7	1.5	97.4	0.4
40～49歳	100.0 (408)	2.4	－	0.5	1.7	1.0	1.0	97.4	0.2
50～59歳	100.0 (452)	2.2	－	0.4	0.9	0.4	1.1	97.0	0.9
60～69歳	100.0 (377)	3.2	1.3	0.8	1.6	1.6	1.6	95.8	1.1
70～79歳	100.0 (423)	9.5	1.2	2.8	<u>4.7</u>	2.1	2.6	89.8	0.7
80歳以上	100.0 (237)	<u>37.6</u>	4.6	10.5	<u>27.4</u>	9.3	13.5	59.9	2.5
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	15.6	2.1	4.6	10.2	3.9	5.3	83.1	1.3

(2) 外出時の状況等（何らかの支援や理解の必要性の有無）－性・年齢階級別

「何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある」人の割合は、80歳以上では、男性 10.4%、女性 25.7%

外出時の状況（何らかの支援や理解の必要性の有無）を性・年齢階級別にみると、「何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある」人の割合は、80歳以上では、男性 10.4%、女性 25.7%で、女性の方が 15.3 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-2-3）

表Ⅱ-2-3 外出時の状況（外出時の何らかの支援や理解の必要性の有無）－性・年齢階級別

	総 数	必 要 と す る	必 要 と し な い	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	4.6	94.5	1.0
男	100.0 (2,163)	3.4	95.7	0.9
20～29歳	100.0 (181)	3.3	96.7	—
30～39歳	100.0 (249)	1.2	98.4	0.4
40～49歳	100.0 (357)	3.9	95.8	0.3
50～59歳	100.0 (452)	1.8	97.3	0.9
60～69歳	100.0 (349)	1.1	97.7	1.1
70～79歳	100.0 (411)	5.4	93.4	1.2
80歳以上	100.0 (164)	<u>10.4</u>	86.6	3.0
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	5.3	92.9	1.7
女	100.0 (2,412)	5.6	93.4	1.0
20～29歳	100.0 (225)	2.2	96.9	0.9
30～39歳	100.0 (270)	5.9	93.7	0.4
40～49歳	100.0 (418)	3.1	96.4	0.5
50～59歳	100.0 (462)	1.9	97.4	0.6
60～69歳	100.0 (377)	3.7	95.8	0.5
70～79歳	100.0 (423)	3.8	95.3	0.9
80歳以上	100.0 (237)	<u>25.7</u>	70.0	4.2
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	9.8	88.6	1.6

(3) 外出時の状況等（外出時の乳幼児連れの有無）一性・年齢階級別

外出時の状況等（外出時の乳幼児連れの有無）を性・年齢階級別にみると、「乳幼児を連れて外出することがある」人の割合は、男女ともに30代が最も高く、男性29.7%、女性35.9%となっている。（表Ⅱ-2-4）

表Ⅱ-2-4 外出時の状況等（外出時の乳幼児連れの有無）一性・年齢階級別

	総 数	外 乳 出 幼 す 児 る を こ 連 と れ が て あ る	外 乳 出 幼 す 児 る を こ 連 と れ が て な い	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	7.6	91.4	1.0
男	100.0 (2,163)	6.9	92.0	1.2
20～29歳	100.0 (181)	3.9	95.6	0.6
30～39歳	100.0 (249)	<u>29.7</u>	70.3	—
40～49歳	100.0 (357)	12.9	86.8	0.3
50～59歳	100.0 (452)	1.8	96.7	1.5
60～69歳	100.0 (349)	1.7	97.4	0.9
70～79歳	100.0 (411)	1.9	96.6	1.5
80歳以上	100.0 (164)	—	95.7	4.3
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	1.7	96.1	2.1
女	100.0 (2,412)	8.2	90.9	0.9
20～29歳	100.0 (225)	6.2	93.8	—
30～39歳	100.0 (270)	<u>35.9</u>	63.7	0.4
40～49歳	100.0 (418)	10.0	89.5	0.5
50～59歳	100.0 (462)	2.6	96.8	0.6
60～69歳	100.0 (377)	5.6	93.6	0.8
70～79歳	100.0 (423)	2.4	96.7	0.9
80歳以上	100.0 (237)	0.8	95.4	3.8
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	2.8	95.5	1.6

(4) 外出時の状況等（妊娠の有無）一年齢階級別

外出時の状況等（妊娠の有無）を年齢階級別にみると、「妊娠している」人の割合は、20代は2.7%、30代は4.8%となっている。（表Ⅱ-2-5）

表Ⅱ-2-5 妊娠の有無一年齢階級別

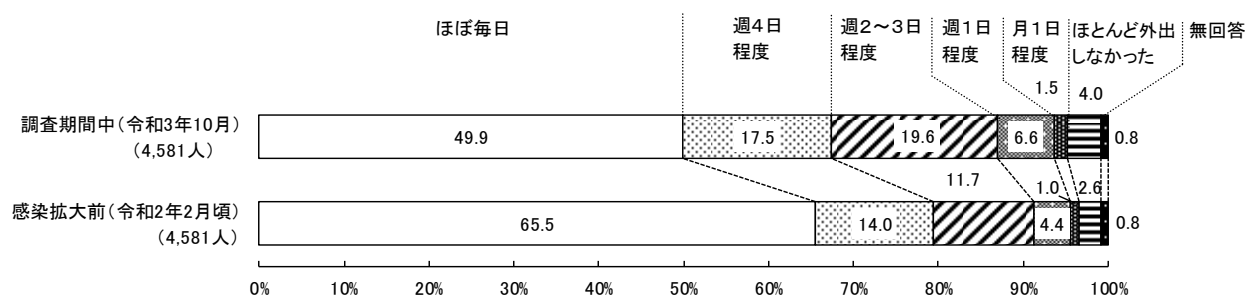
	総 数	妊 娠 し て い る	妊 娠 し て い ない	無 回 答
総数(女性)	100.0 (2,412)	0.8	96.1	3.2
20～29歳	100.0 (225)	<u>2.7</u>	94.2	3.1
30～39歳	100.0 (270)	<u>4.8</u>	93.7	1.5
40～49歳	100.0 (418)	－	94.3	5.7
50～59歳	100.0 (462)	－	94.4	5.6
60～69歳	100.0 (377)	－	98.4	1.6
70～79歳	100.0 (423)	－	99.8	0.2
80歳以上	100.0 (237)	－	96.6	3.4
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	－	98.9	1.1

2 外出頻度

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和２年２月頃）」及び「令和３年１０月」の外
出頻度について聞いたところ、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和２年２月頃）」
は、「ほぼ毎日」の割合が 65.5%で最も高く、次いで「週４日程度」が 14.0%、「週２～３日
程度」が 11.7%となっている。

一方、「令和３年１０月」では、「ほぼ毎日」の割合が 49.9%で最も高く、次いで「週２～３
日程度」が 19.6%、「週４日程度」が 17.5%となっている。（図Ⅱ-2-1）

図Ⅱ-2-1 外出頻度（調査期間中と新型コロナウイルス感染症の感染拡大前）

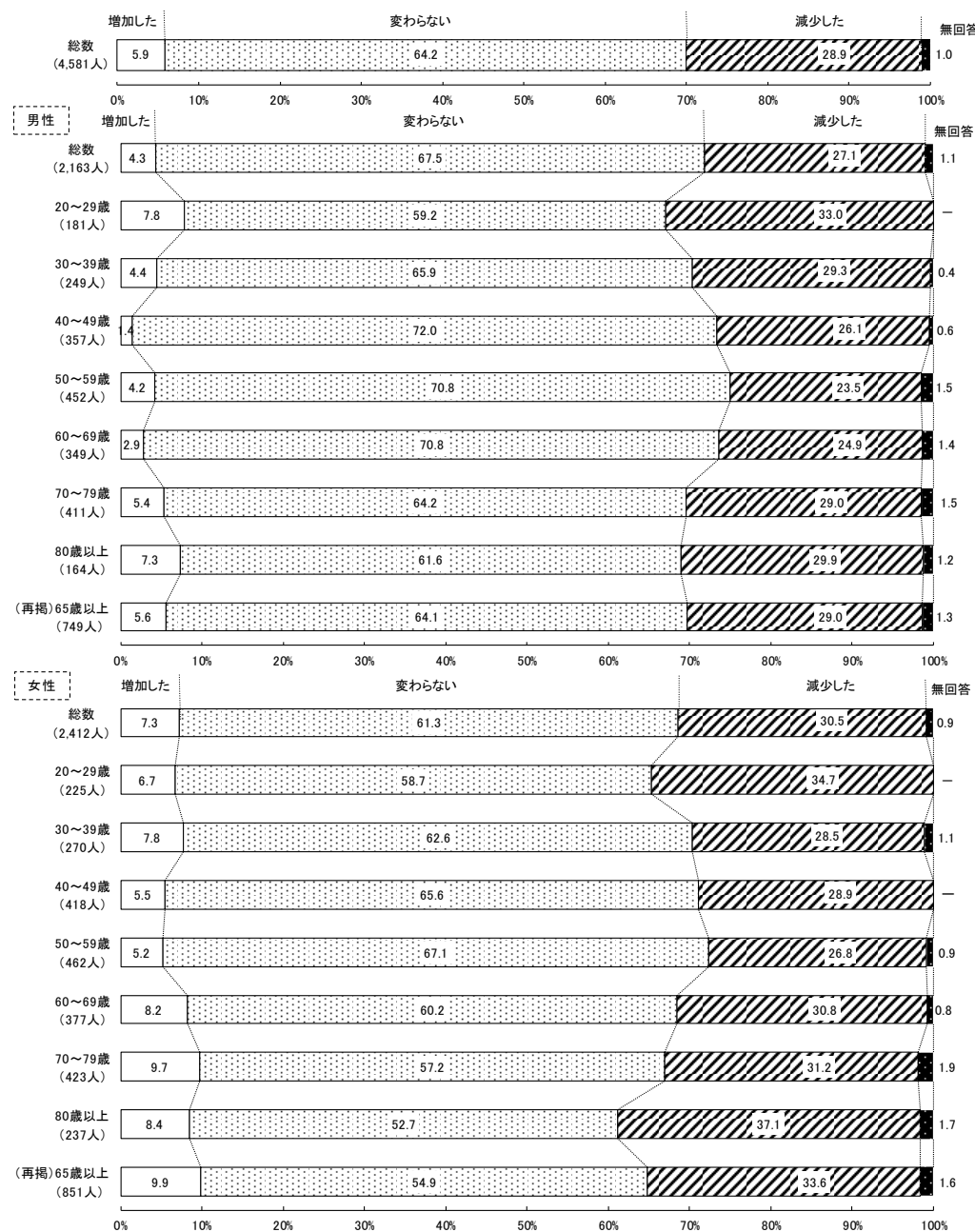


(1) 外出頻度の変化－性・年齢階級別

外出頻度の変化について、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和2年2月頃）」と比べて「調査期間中（令和3年10月）」の外出頻度は、「増加した」割合が5.9%、「変わらない」が64.2%、「減少した」が28.9%となっている。

性・年齢階級別にみると、すべての年齢階級において「変わらない」割合が最も高く、5割以上となっている（52.7%～72.0%）。（図Ⅱ-2-2）

図Ⅱ-2-2 外出頻度の変化－性・年齢階級別

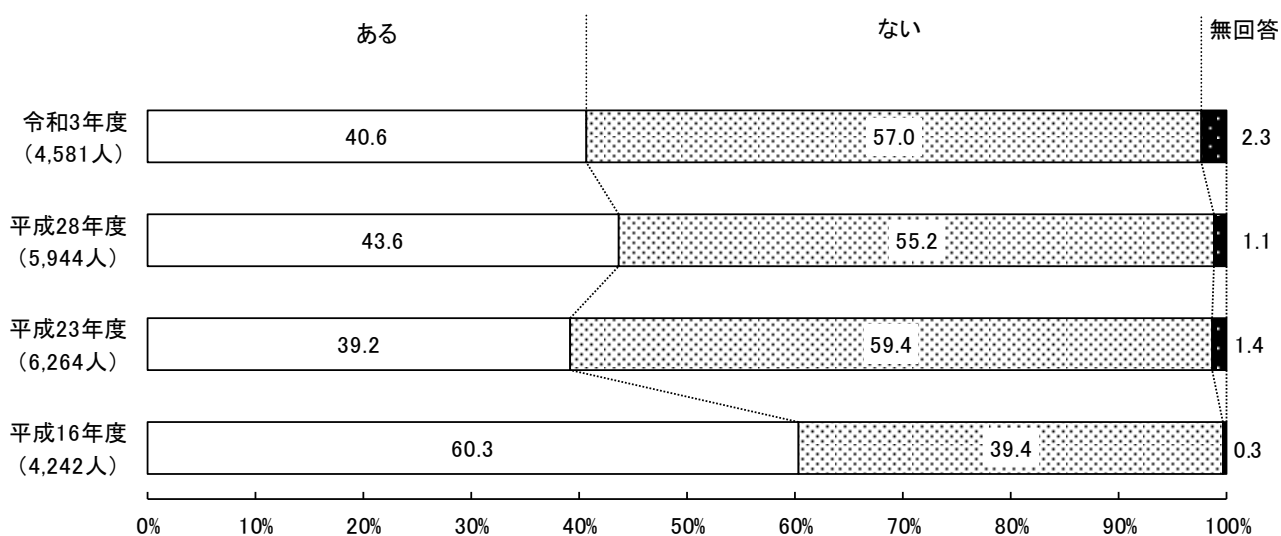


3 日常よく出かけるところに着くまでのバリアー過去調査との比較

バリアを感じるところが「ある」の割合は約4割

日常よく出かけるところ（職場、学校、買い物先など）に着くまでに、道路や駅、電車やバスなどで、バリアフリー化が進んでいないために、不便（以下「バリア」という。）を感じるところがあるかを聞いたところ、「ある」の割合は40.6%で、平成28年度調査と比べると、3.0ポイント低くなっている。（図Ⅱ-2-3）

図Ⅱ-2-3 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無―過去調査との比較



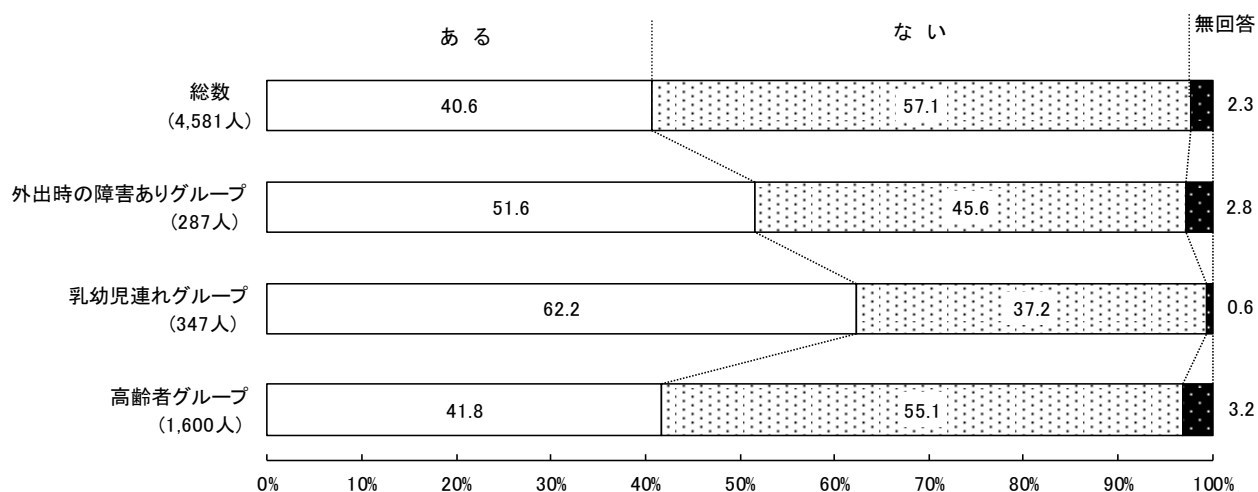
(1) 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－外出時グループ別

バリアを感じるところが「ある」の割合は、乳幼児連れグループでは、6割超

日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無を外出時グループ別にみると、バリアを感じるところが「ある」の割合は、「外出時の障害ありグループ」は 51.6%で、総数と比べて 11.0 ポイント高くなっている。

また、「乳幼児連れグループ」は 62.2%で、総数と比べて 21.6 ポイント高くなっている。(図Ⅱ-2-4)

図Ⅱ-2-4 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－外出時グループ別



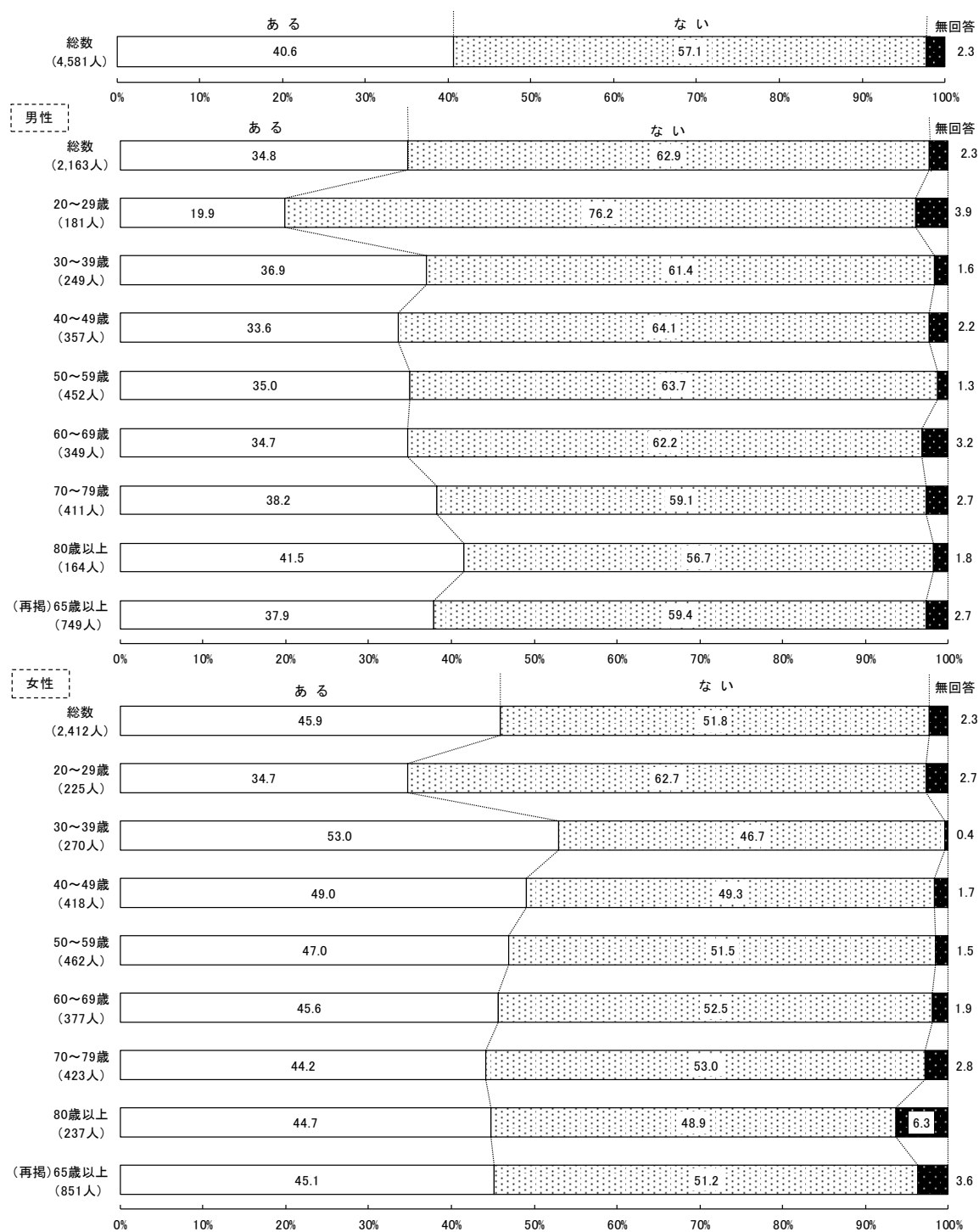
(2) 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無一性・年齢階級別

バリアを感じるところが「ある」の割合は、女性の方が高い

日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無を性別にみると、バリアを感じるところが「ある」の割合は、男性 34.8%、女性 45.9%で、女性の方が 11.1 ポイント高くなっている。

(図Ⅱ-2-5)

図Ⅱ-2-5 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無一性・年齢階級別

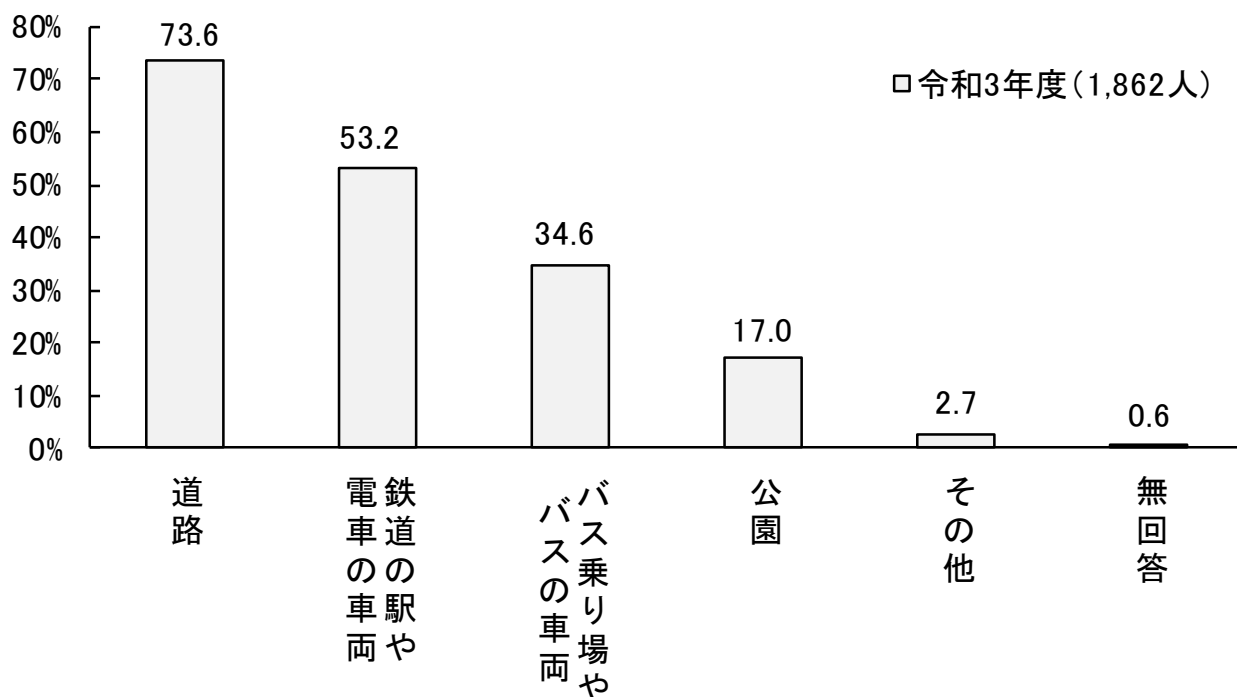


(3) 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕

バリアを感じるところがある人のうち、バリアを感じる箇所は、「道路」は7割超、「鉄道の駅や電車の車両」は5割超

日常よく出かけるところに着くまでにバリアを感じるところが「ある」人(2,593人)に、バリアを感じる箇所を聞いたところ、「道路」の割合が73.6%で最も高く、次いで、「鉄道の駅や電車の車両」が53.2%となっている。(図Ⅱ-2-6)

図Ⅱ-2-6 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕



ア 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕－地域別

「道路」の割合は、区部より市町村部の方が高く、「鉄道の駅の駅や電車の車両」の割合は、市町村部より区部の方が高い

バリアの箇所を地域別にみると、「道路」の割合は、区部は 38.4%、市町村部は 45.1%で、市町村部の方が 6.7 ポイント高くなっている。

一方、「鉄道の駅の駅や電車の車両」の割合は、区部は 30.9%、市町村部は 25.9%で、区部の方が 5.0 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-2-6）

表Ⅱ-2-6 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕－地域別

	総 数	道 路	公 園	の 鉄 車 道 両 の 駅 駅 や や 電 電 車 車	の バ ス 車 両 乗 り 場 や バ ス	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,862)	40.5	9.4	29.3	19.0	1.5	0.3
区部	100.0 (1,249)	<u>38.4</u>	9.6	<u>30.9</u>	19.4	1.5	0.2
区中央部	100.0 (132)	39.0	7.6	35.7	16.9	0.8	－
区南部	100.0 (158)	39.0	11.4	29.5	17.8	2.3	－
区西南部	100.0 (178)	36.1	7.6	33.2	20.9	2.2	－
区西部	100.0 (198)	37.2	9.6	33.1	19.1	0.8	0.3
区西北部	100.0 (293)	41.1	9.0	29.8	18.6	1.3	0.2
区東北部	100.0 (126)	39.5	13.7	24.9	20.6	1.3	－
区東部	100.0 (164)	35.8	9.7	29.3	22.1	2.2	0.9
市・町・村部	100.0 (613)	<u>45.1</u>	8.9	<u>25.9</u>	18.2	1.4	0.6
西多摩	100.0 (40)	49.3	12.7	25.4	12.7	－	－
南多摩	100.0 (176)	42.5	8.0	27.8	19.0	1.2	1.5
北多摩西部	100.0 (125)	53.0	10.0	20.0	15.0	1.5	0.5
北多摩南部	100.0 (161)	44.0	6.1	28.2	20.6	1.1	－
北多摩北部	100.0 (111)	41.5	11.6	25.6	18.8	2.4	－

（注 1）本報告書における「地域」とは、集計対象者の居住地域を示すものである。

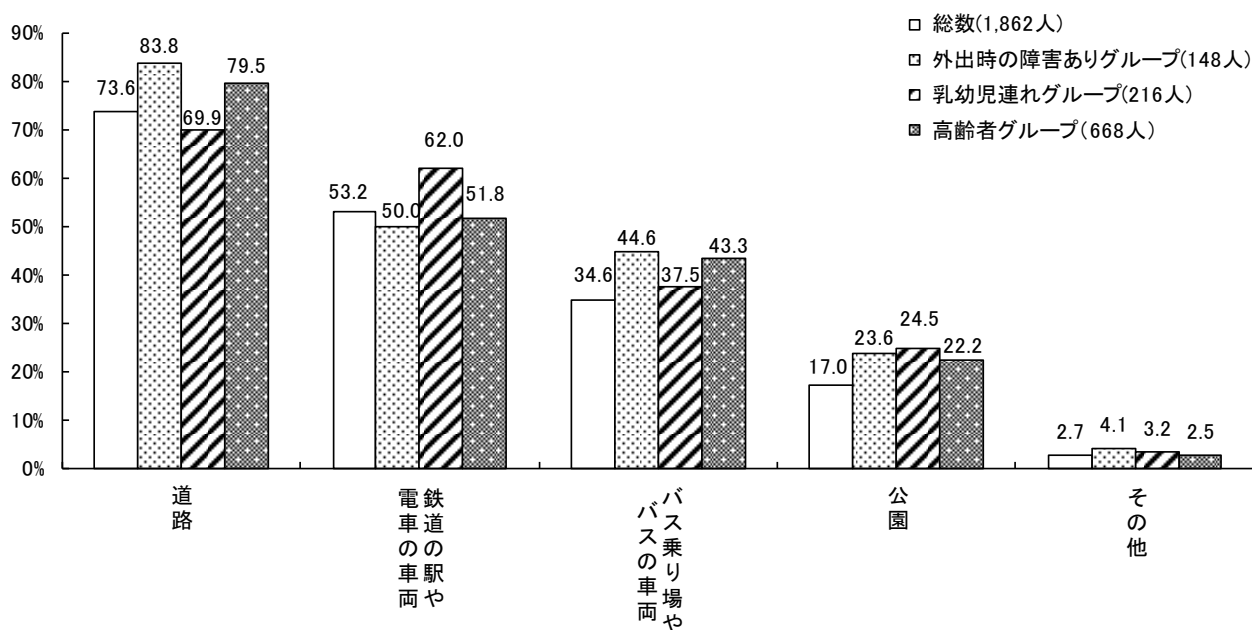
イ 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕－外出時グループ別

「乳幼児連れグループ」は、「鉄道の駅や電車の車両」の割合が総数に比べて高く、「道路」の割合が総数に比べて低い

バリアの箇所を外出時グループ別にみると、「乳幼児連れグループ」では、「鉄道の駅や電車の車両」の割合が 62.0%で、総数（53.2%）に比べて、8.8 ポイント高くなっている。また、「外出時の障害ありグループ」では、「道路」、「バス乗り場やバスの車両」の割合はそれぞれ 83.8%、44.6%で総数（73.6%、34.6%）に比べて、10 ポイント以上高くなっている。（図Ⅱ-2-7）

図Ⅱ-2-7 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕

－外出時グループ別

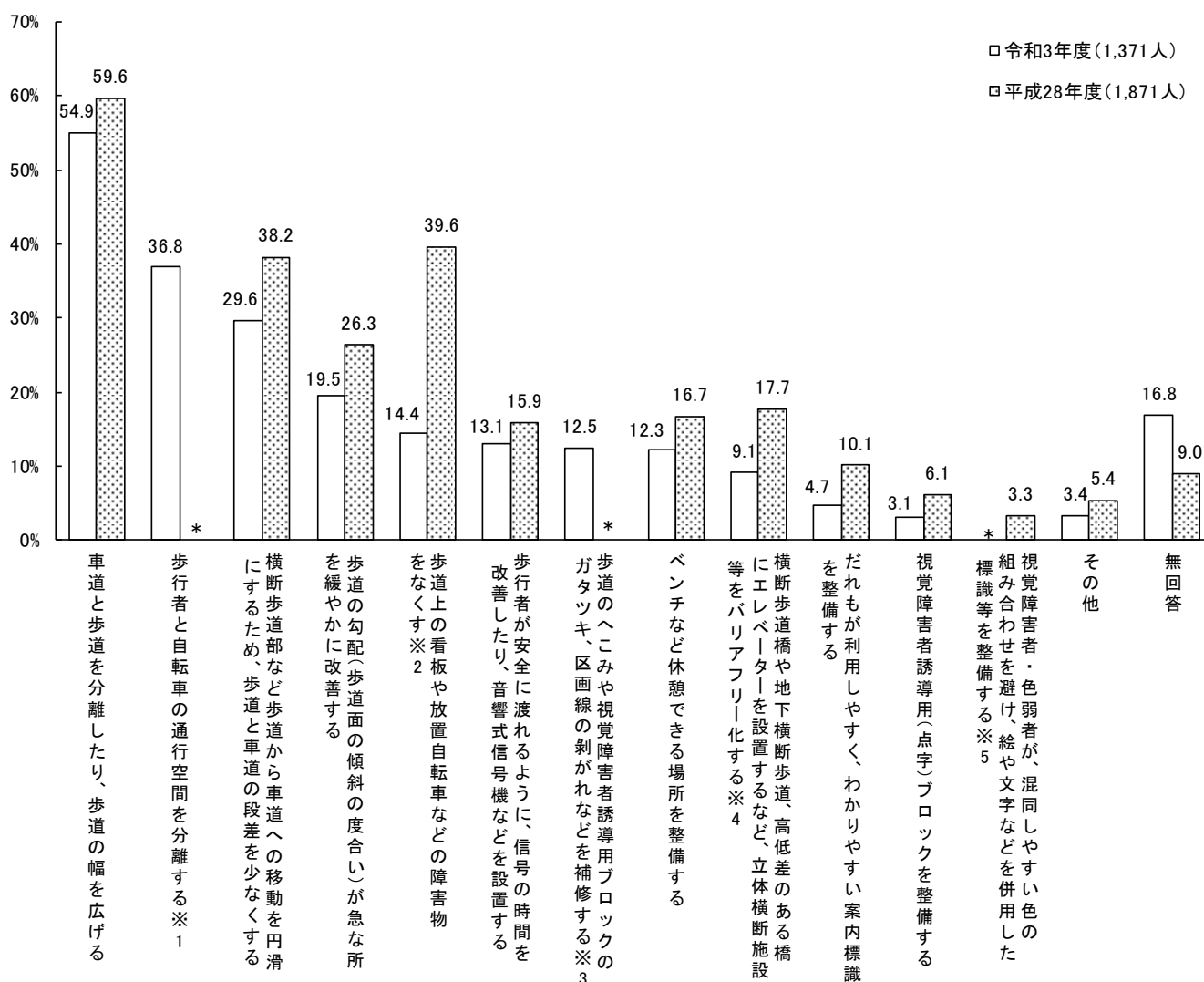


(4) 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－平成28年度調査との比較

「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高く、5割超

道路でバリアを感じるところが「ある」人(1,371人)に、道路を利用しやすくするためにどのような整備が必要だと思うか聞いたところ、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が54.9%で最も高く、次いで、「歩行者と自転車の通行空間を分離する」が36.8%、「横断歩道部など歩道から車道への移動を円滑にするため、歩道と車道の段差を少なくする」が29.6%となっている。また、「歩道上の看板や放置自転車などの障害物をなくす」の割合は、14.4%で、平成28年度と比較すると、25.2ポイント低くなっている。(図Ⅱ-2-8)

図Ⅱ-2-8 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－平成28年度調査との比較



(注1) ※1、3は、平成28年度調査では選択肢を設けていなかった。

(注2) ※2は、平成28年度調査では「歩道上の障害物(看板・放置自転車など)をなくす」としていた。

(注3) ※4は、平成28年度調査では「横断歩道橋や地下横断歩道にエレベーターを設置するなど、立体横断施設をバリアフリー化する」としていた。

(注4) ※5は、令和3年度調査では選択肢を設けていない。

ア 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともにすべての年齢階級において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高い

道路で整備が必要なことを性・年齢階級別にみると、男女ともにすべての年齢階級において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高くなっている。

また、「歩道のへこみや視覚障害者誘導用ブロックのガタツキ、区画線の剥がれなどを補修する」の割合は、男性は9.9%、女性は14.2%で、男性の方が4.7ポイント低くなっている。
(表Ⅱ-2-7)

表Ⅱ-2-7 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－性・年齢階級別

	総 数	車 道 と 歩 道 を 分 離 し た り 、 歩 道 の 幅 を 広 げ る	横 断 歩 道 部 な ど 歩 道 と 車 道 の 段 差 を 少 な く す る	歩 道 の 勾 配 (歩 道 面 の 傾 斜 の 度 合 い) が 急 な 箇所 を 緩 やか に 改 善 す る	歩 行 者 が 安 全 に 渡 れ る よう に、 音 響 式 信 号 機 な ど を 設 置 す る	横 断 歩 道 橋 や 地 下 横 断 歩 道 、 高 低 差 の あ る 橋 に を エ レ ベ ー タ ー を 設 置 す る な ど、 立 体 横 断 施 設 等 を バ リ エ ー フ リ ー 化 す る	だ れ も が 利 用 し や す く、 わ か り や す い 案 内 標 示 を 整 備 す る	視 覚 障 害 者 誘 導 用 (点 字) ブ ロ ッ ク を 整 備 す る	ベ ン チ な ど 休 憩 で き る 場 所 を 整 備 す る	歩 行 者 と 自 転 車 の 通 行 空 間 を 分 離 す る	歩 道 上 の 看 板 や 放 置 自 転 車 な ど の 障 害 物 を な く す	歩 道 の へ こ み や 視 覚 障 害 者 誘 導 用 ブ ロ ッ ク の ガ タ ツ キ、 区 画 線 の 剥 が れ な ど を 補 修 す る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,371)	54.9	29.6	19.5	13.1	9.1	4.7	3.1	12.3	36.8	14.4	12.5	3.4	17.1
男	100.0 (556)	<u>57.2</u>	29.7	19.4	12.6	10.4	4.9	3.6	12.1	34.5	15.1	<u>9.9</u>	3.1	17.6
20～29歳	100.0 (30)	<u>56.7</u>	33.3	13.3	13.3	10.0	3.3	3.3	6.7	33.3	13.3	13.3	3.3	13.3
30～39歳	100.0 (61)	<u>50.8</u>	31.1	19.7	14.8	14.8	1.6	1.6	9.8	31.1	4.9	8.2	3.3	19.7
40～49歳	100.0 (84)	<u>60.7</u>	27.4	19.0	7.1	7.1	4.8	4.8	14.3	38.1	13.1	11.9	7.1	14.3
50～59歳	100.0 (107)	<u>56.1</u>	30.8	19.6	11.2	12.1	4.7	0.9	4.7	33.6	22.4	11.2	1.9	18.7
60～69歳	100.0 (92)	<u>60.9</u>	30.4	17.4	12.0	6.5	5.4	3.3	7.6	35.9	25.0	7.6	4.3	18.5
70～79歳	100.0 (124)	<u>54.0</u>	29.0	23.4	12.1	12.9	4.0	7.3	18.5	34.7	9.7	9.7	0.8	19.4
80歳以上	100.0 (58)	<u>62.1</u>	27.6	17.2	22.4	8.6	10.3	1.7	20.7	32.8	12.1	8.6	1.7	15.5
(再掲)65歳以上	100.0 (229)	<u>59.0</u>	28.4	21.4	15.3	10.9	6.6	4.4	17.0	34.9	14.0	8.3	1.7	17.0
女	100.0 (815)	<u>53.4</u>	29.6	19.5	13.4	8.2	4.5	2.8	12.4	38.4	14.0	<u>14.2</u>	3.6	16.7
20～29歳	100.0 (43)	<u>58.1</u>	20.9	11.6	11.6	11.6	2.3	4.7	7.0	39.5	4.7	7.0	2.3	18.6
30～39歳	100.0 (99)	<u>59.6</u>	32.3	10.1	13.1	10.1	3.0	—	8.1	30.3	9.1	10.1	6.1	19.2
40～49歳	100.0 (156)	<u>50.0</u>	25.0	15.4	9.6	3.8	5.1	4.5	5.8	37.8	13.5	17.3	4.5	21.8
50～59歳	100.0 (161)	<u>57.1</u>	32.9	22.4	10.6	9.3	2.5	3.7	8.7	37.9	16.8	17.4	5.0	17.4
60～69歳	100.0 (126)	<u>50.8</u>	36.5	19.8	17.5	7.1	7.9	3.2	14.3	41.3	17.5	11.9	2.4	12.7
70～79歳	100.0 (152)	<u>52.0</u>	23.7	25.0	16.4	10.5	3.9	1.3	16.4	44.1	17.1	14.5	1.3	15.1
80歳以上	100.0 (78)	<u>48.7</u>	33.3	26.9	15.4	7.7	6.4	2.6	30.8	34.6	9.0	14.1	2.6	10.3
(再掲)65歳以上	100.0 (302)	<u>52.3</u>	29.1	24.2	17.5	9.3	6.3	2.3	20.5	42.7	14.9	13.2	2.0	11.6

イ 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－外出時グループ別

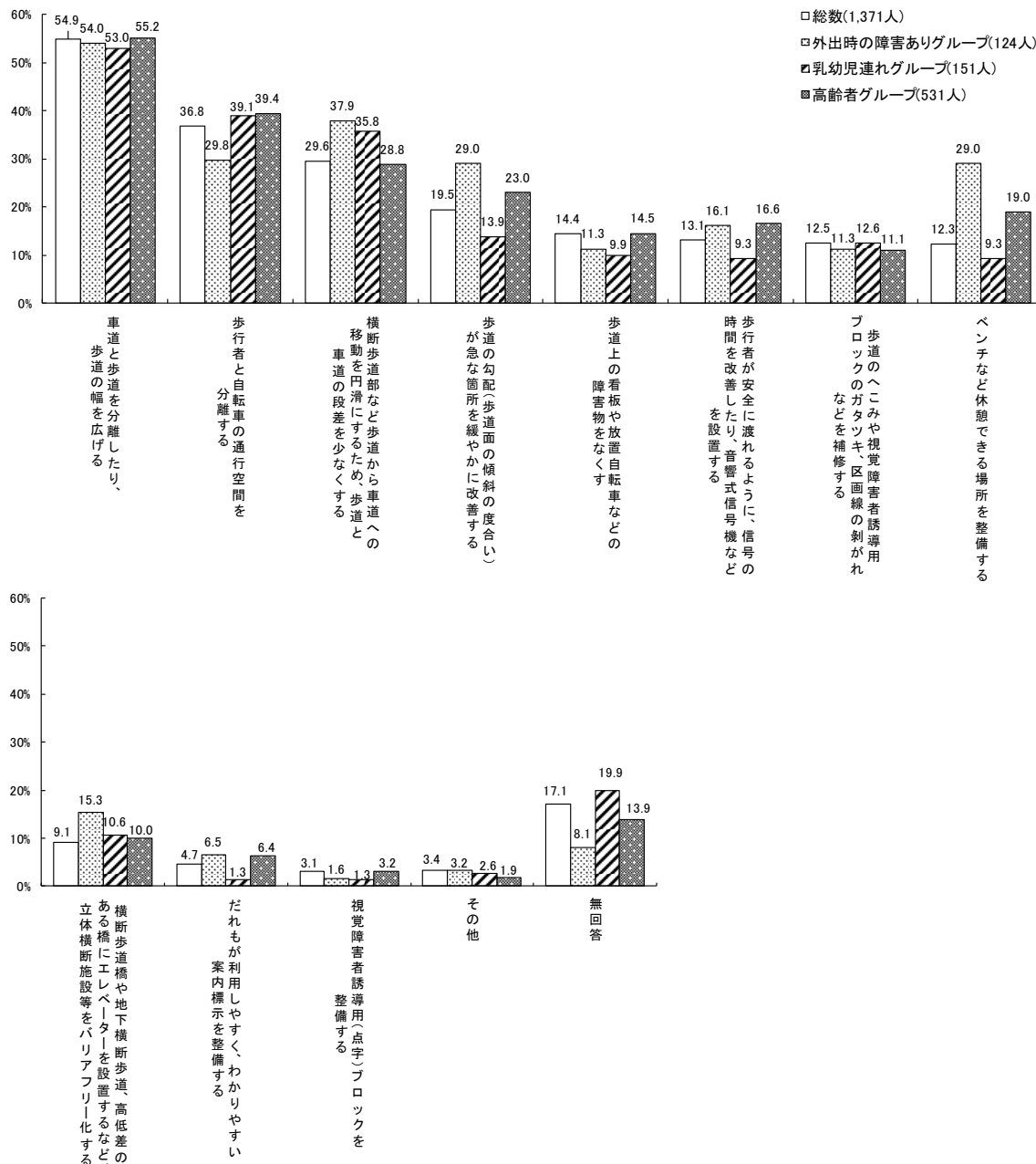
外出時の障害ありグループ、高齢者グループでは、「ベンチなど休憩場所の整備する」の割合が、総数に比べて高い

道路で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合は、外出時の障害ありグループは 29.0%、高齢者グループは 19.0%で、総数よりもそれぞれ 16.7 ポイント、6.7 ポイント高くなっている。

一方、乳幼児連れグループは、「横断歩道部など歩道から車道への移動を円滑にするため、歩道と車道の段差を少なくする」の割合が 35.8%で、総数より 6.2 ポイント高くなっている。

(図Ⅱ-2-9)

図Ⅱ-2-9 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－外出時グループ別



ウ 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕

ー外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

すべての障害において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高い

道路で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、すべての障害において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高くなっている。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が49.5%で最も高く、次いで「横断歩道部など歩道から車道への移動を円滑にするため、歩道と車道の段差を少なくする」が32.0%、「歩道の勾配（歩道面の傾斜の度合い）が急な箇所を緩やかに改善する」が29.9%となっている。（表Ⅱ-2-8）

表Ⅱ-2-8 道路で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕

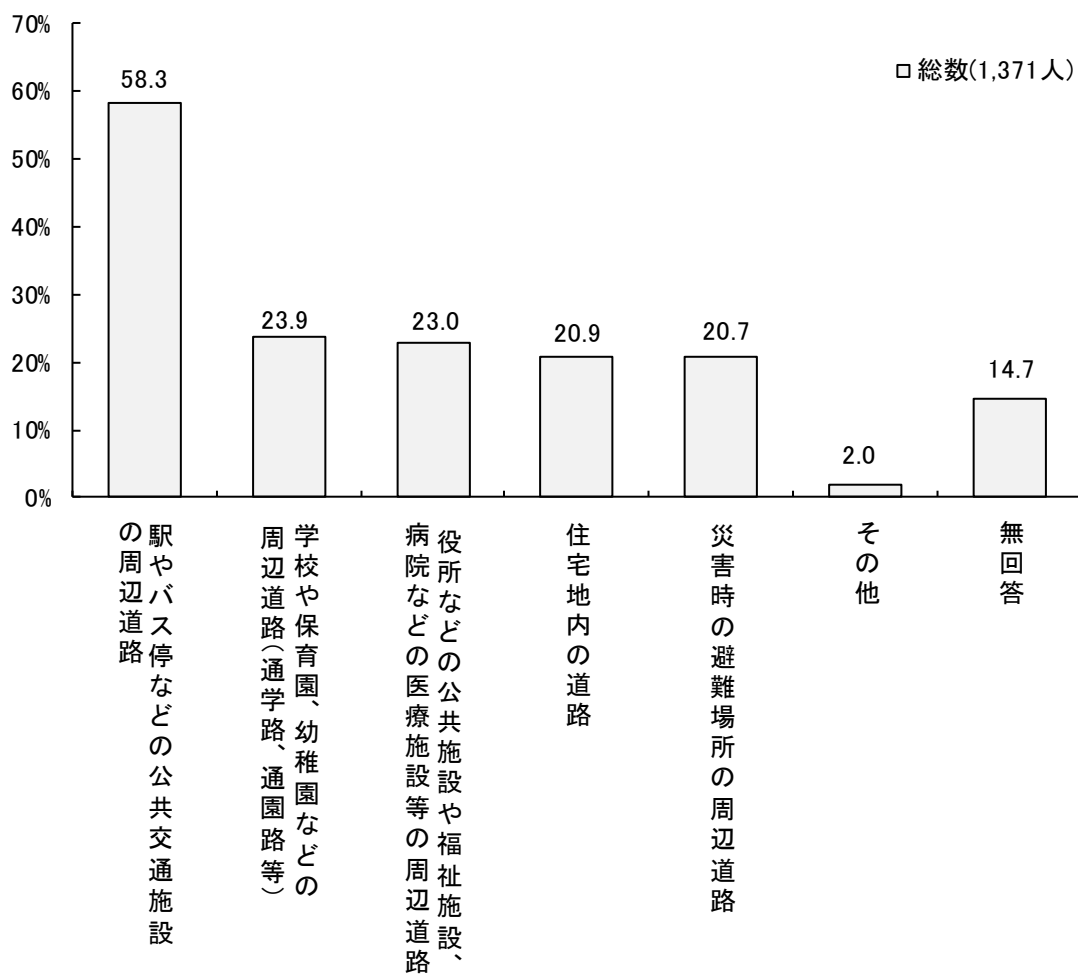
ー外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

		総数	車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる	横断歩道部など歩道から車道への移動を円滑にするため、歩道と車道の段差を少なくする	歩道の勾配（歩道面の傾斜の度合い）が急な箇所を緩やかに改善する	歩行者が安全に渡れるように、信号などを設置する	横断歩道橋や地下横断歩道、高低差のある橋にエレベーターを設置するなど、立体横断施設等をバリアフリー化するなど	だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	ベンチなど休憩できる場所を整備する	歩行者と自転車の通行空間を分離する	歩道上の看板や放置自転車などの障害物をなくす	歩道のへこみや視覚障害者誘導用ブロックのガタツキ、区画線の剥がれなどを補修する	その他	無回答
総数		100.0 (1,371)	54.9	29.6	19.5	13.1	9.1	4.7	3.1	12.3	36.8	14.4	12.5	3.4	17.1
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (124)	54.0	37.9	29.0	16.1	15.3	6.5	1.6	29.0	29.8	11.3	11.3	3.2	8.1
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (13)	<u>46.2</u>	38.5	30.8	15.4	7.7	7.7	7.7	23.1	7.7	7.7	15.4	-	23.1
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (30)	<u>56.7</u>	50.0	30.0	20.0	10.0	3.3	3.3	30.0	36.7	6.7	16.7	-	6.7
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (84)	<u>54.8</u>	33.3	33.3	16.7	14.3	6.0	1.2	28.6	28.6	8.3	11.9	3.6	9.5
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (35)	<u>62.9</u>	34.3	37.1	11.4	17.1	5.7	2.9	28.6	20.0	17.1	11.4	2.9	8.6
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (46)	<u>52.2</u>	28.3	21.7	17.4	17.4	8.7	-	26.1	32.6	15.2	15.2	6.5	6.5
	外出時に障害がない	100.0 (1,236)	<u>55.1</u>	28.8	18.5	12.9	8.5	4.5	3.3	10.6	37.7	14.8	12.6	3.4	17.7
	の由外 必に出 要する の支何 援有無 やか 別理 解理	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (97)	<u>49.5</u>	<u>32.0</u>	<u>29.9</u>	15.5	13.4	4.1	3.1	28.9	26.8	15.5	16.5	4.1
	必要としない	100.0 (1,254)	55.7	29.5	18.8	12.8	8.9	4.8	3.0	10.9	37.9	14.3	12.2	3.3	17.6

(5) バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路〔2つまでの複数回答〕

道路でバリアを感じるところが「ある」人(1,371人)に、どのような道路でバリアフリー化を重点的に進める必要があるか聞いたところ、「駅やバス停などの公共交通施設の周辺道路」の割合が58.3%で最も高く、次いで、「学校や保育園、幼稚園などの周辺道路(通学路、通園路等)」が23.9%、「役所などの公共施設や福祉施設、病院などの医療施設等の周辺道路」が23.0%となっている。(図Ⅱ-2-10)

図Ⅱ-2-10 バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路〔2つまでの複数回答〕



ア バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路〔2つまでの複数回答〕一性・年齢階級別

バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路を性・年齢階級別にみると、男女ともに「駅やバス停などの公共交通施設の周辺道路」の割合が最も高く（男性 60.6%、女性 56.7%）、次いで、男性では「役所などの公共施設や福祉施設、病院などの医療施設等の周辺道路」が 25.5%、女性では「学校や保育園、幼稚園などの周辺道路（通学路、通園路等）」が 26.0%で高くなっている。（表Ⅱ-2-9）

表Ⅱ-2-9 バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路〔2つまでの複数回答〕

一性・年齢階級別

	総 数	周 駅 辺 や 道 バ 路 ス 停 な ど の 公 共 交 通 施 設 の	病 役 院 所 な ど の 公 共 施 設 等 の 福 祉 施 設 の 周 辺 道 路	周 学 辺 校 道 や 路 保 （ 育 通 園 学 路 、 幼 稚 園 な ど の ）	災 害 時 の 避 難 場 所 の 周 辺 道 路	住 宅 地 内 の 道 路	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,371)	58.3	23.0	23.9	20.7	20.9	2.0	14.7
男	100.0 (556)	<u>60.6</u>	<u>25.5</u>	20.7	19.4	<u>22.5</u>	2.3	13.8
20～29歳	100.0 (30)	70.0	33.3	6.7	13.3	16.7	－	20.0
30～39歳	100.0 (61)	47.5	19.7	29.5	14.8	31.1	－	19.7
40～49歳	100.0 (84)	63.1	14.3	32.1	13.1	28.6	4.8	9.5
50～59歳	100.0 (107)	61.7	25.2	15.9	21.5	22.4	3.7	14.0
60～69歳	100.0 (92)	64.1	38.0	19.6	21.7	17.4	1.1	10.9
70～79歳	100.0 (124)	64.5	27.4	16.9	22.6	18.5	3.2	12.9
80歳以上	100.0 (58)	50.0	20.7	20.7	22.4	24.1	－	17.2
(再掲)65歳以上	100.0 (229)	61.6	28.8	18.3	22.3	20.1	1.7	12.7
女	100.0 (815)	<u>56.7</u>	21.2	<u>26.0</u>	<u>21.6</u>	19.9	1.7	15.2
20～29歳	100.0 (43)	65.1	23.3	44.2	14.0	4.7	－	14.0
30～39歳	100.0 (99)	49.5	17.2	44.4	15.2	20.2	1.0	15.2
40～49歳	100.0 (156)	50.0	14.1	34.6	14.7	21.8	2.6	19.9
50～59歳	100.0 (161)	57.1	25.5	21.1	25.5	23.6	1.9	13.0
60～69歳	100.0 (126)	64.3	26.2	23.0	21.4	15.9	0.8	11.1
70～79歳	100.0 (152)	59.2	23.0	17.8	27.0	18.4	1.3	16.4
80歳以上	100.0 (78)	56.4	19.2	6.4	29.5	25.6	3.8	15.4
(再掲)65歳以上	100.0 (302)	59.3	21.2	16.2	26.5	20.9	1.7	14.9

イ バリアフリー化重点的に進める必要がある道路〔2つまでの複数回答〕

－外出時グループ別

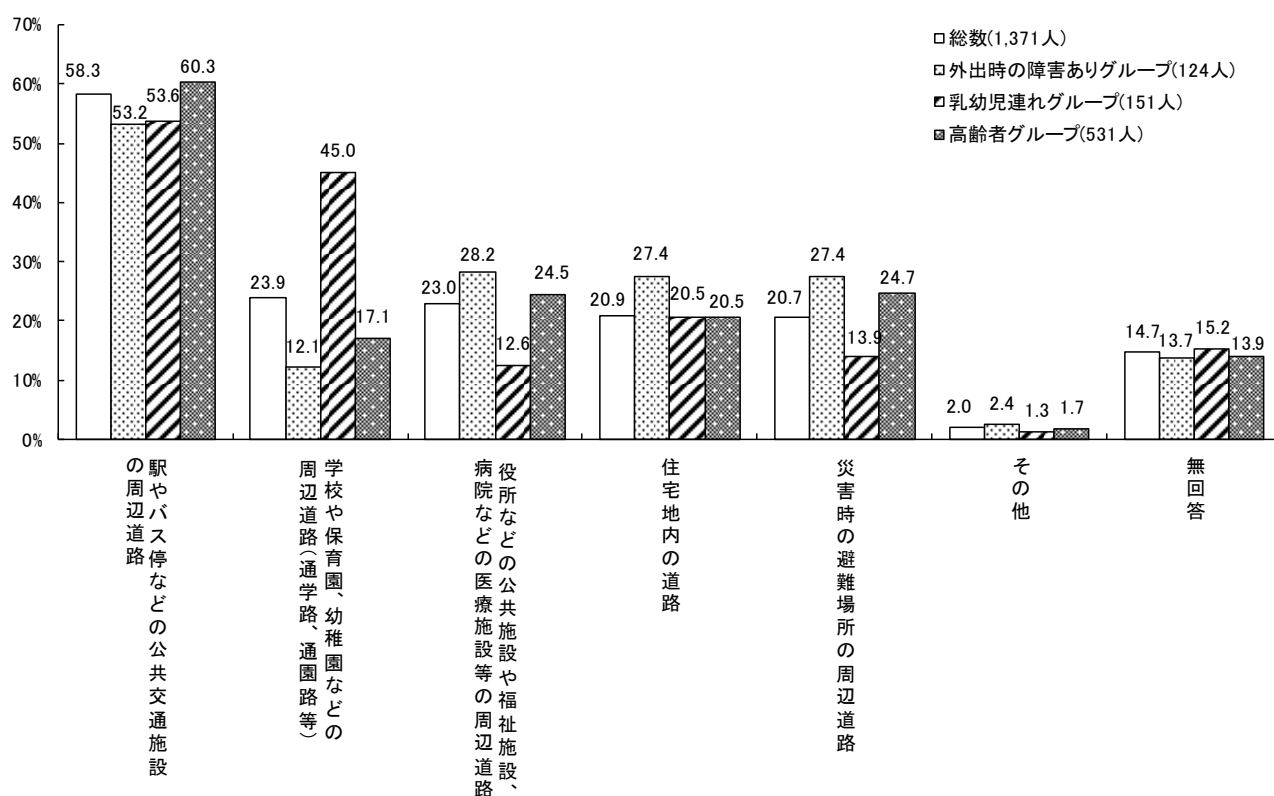
乳幼児連れグループでは、「学校や保育園、幼稚園などの周辺道路（通学路、通園路等）」の割合が、総数に比べて高い

バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路を外出時グループ別にみると、「学校や保育園、幼稚園などの周辺道路（通学路、通園路等）」の割合は、乳幼児連れグループが 45.0% で、総数（23.9%）と比べて、21.1 ポイント高くなっている。

また、外出時の障害ありグループは、「災害時の避難場所の周辺道路」の割合が 27.4% で、総数（20.7%）と比べて、6.7 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-11）

図Ⅱ-2-11 バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路〔2つまでの複数回答〕

－外出時グループ別



ウ バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路〔２つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

外出時に肢体の障害がある人は、「駅やバス停などの公共交通施設の周辺道路」の割合が最も高い

バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路を外出時の障害の有無別にみると、肢体に障害がある人は、「駅やバス停などの公共交通施設の周辺道路」の割合が 51.2%で最も高く、次いで、「住宅地内の道路」が、33.3%となっている。

また、体の内部に障害がある人は、「役所などの公共施設や福祉施設、病院などの医療施設等の周辺道路」の割合が 42.9%で、総数（23.0%）より 19.9 ポイント高くなっている。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「住宅地内の道路」の割合が 29.9%で、総数（20.9%）より 9.0 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-2-10）

表Ⅱ-2-10 バリアフリー化を重点的に進める必要がある道路〔２つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

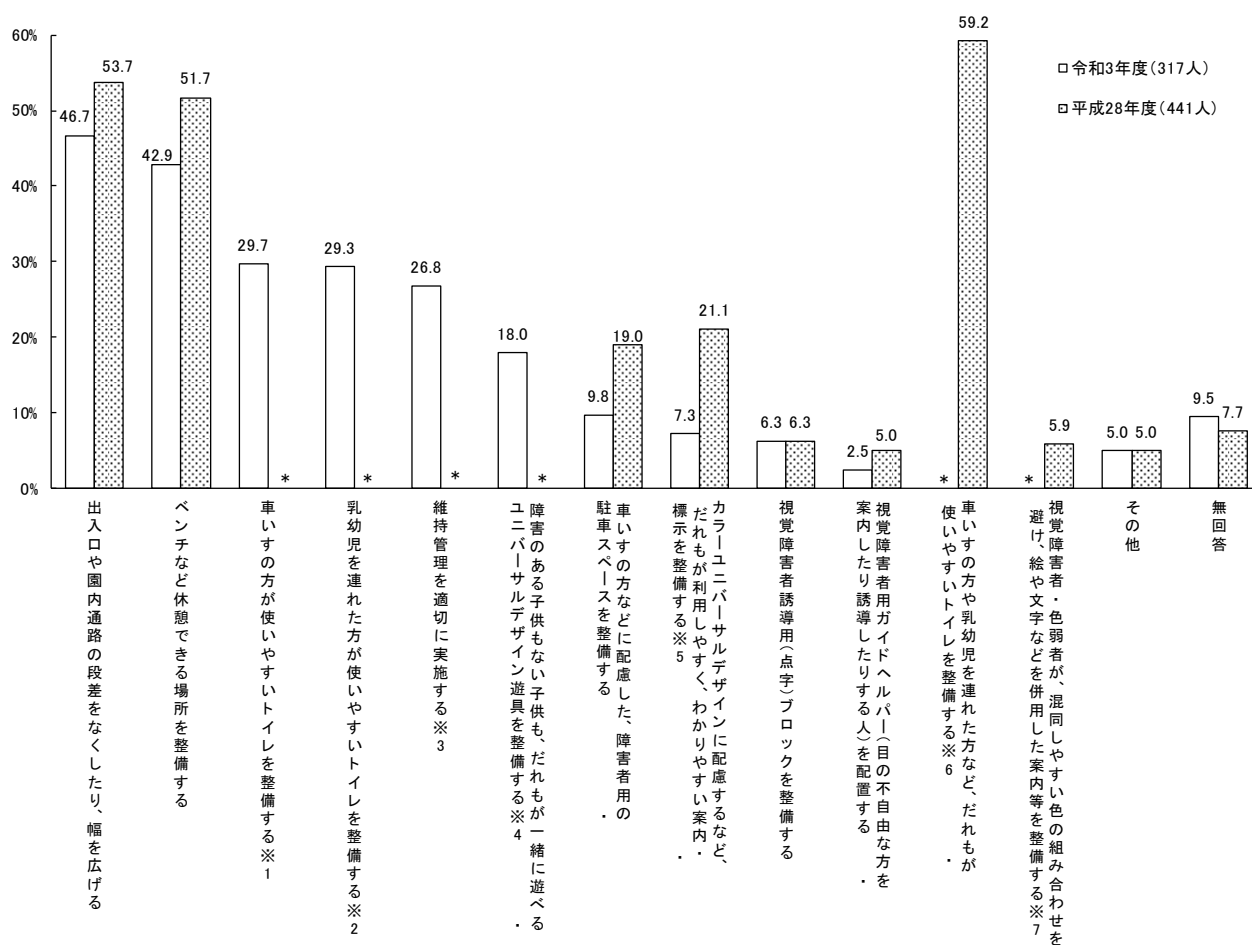
		総数	駅やバス停などの公共交通施設の周辺道路	役所などの公共施設や福祉施設等の周辺道路、病院などの医療施設等の周辺道路	学校や保育園（通学、幼稚園、通園路等）	災害時の避難場所の周辺道路	住宅地内の道路	その他	無回答
総数		100.0 (1,371)	58.3	<u>23.0</u>	23.9	20.7	<u>20.9</u>	2.0	14.7
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (124)	53.2	28.2	12.1	27.4	27.4	2.4	13.7
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (13)	53.8	23.1	7.7	15.4	46.2	－	23.1
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (30)	56.7	26.7	20.0	30.0	20.0	6.7	13.3
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (84)	<u>51.2</u>	28.6	8.3	28.6	<u>33.3</u>	－	15.5
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (35)	45.7	<u>42.9</u>	8.6	37.1	37.1	－	8.6
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (46)	54.3	21.7	13.0	28.3	30.4	2.2	10.9
	外出時に障害がない	100.0 (1,236)	58.9	22.5	25.2	20.1	20.4	1.9	14.5
の由外 必に出 要よる 時の支 何援ら 有無や か別理 の解理	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (97)	51.5	20.6	17.5	27.8	<u>29.9</u>	2.1	11.3
	必要としない	100.0 (1,254)	58.9	23.4	24.4	20.3	20.3	2.0	14.6

（６）公園で整備が必要なこと〔３つまでの複数回答〕－平成 28 年度調査との比較

「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」が最も高く、４割超

公園でバリアを感じるところが「ある」人（317 人）に、公園を利用しやすくするためにどのような整備・対応が必要か聞いたところ、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」の割合が 46.7%で最も高く、次いで「ベンチなど休憩できる場所を整備する」が 42.9%となっている。（図Ⅱ-2-12）

図Ⅱ-2-12 公園で整備が必要なこと〔３つまでの複数回答〕－平成 28 年度調査との比較



（注 1）※1～4 は、平成 28 年度調査では選択肢を設けていなかった。

（注 2）※5 は、平成 28 年度調査では「だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する」としていた。

（注 3）※6、7 は、令和 3 年度調査では選択肢を設けていない。

ア 公園で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともに「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」の割合が最も高い

公園で整備が必要なことを性別でみると、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」の割合が、男性は49.7%、女性は43.8%で、男女ともに最も高くなっている。

また、「障害のある子供もない子供も、だれもが一緒に遊べるユニバーサルデザイン遊具を整備する」の割合は、男性12.9%、女性22.8%で、女性の方が9.9ポイント高くなっている。(表Ⅱ-2-11)

表Ⅱ-2-11 公園で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－性・年齢階級別

	総 数	出 入 口 や 園 内 通 路 の 段 差 を な く し た り 、 幅 を 広 げ る	ベ ン チ な ど 休 憩 で き る 場 所 を 整 備 す る	車 い す の 方 が 使 い や す い ト イ レ を 整 備 す る	乳 幼 児 を 連 れた 方 が 使 い や す い ト イ レ を 整 備 す る	わ か り や す い だ れ も が 一 緒 に 遊 べ る ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン に 配 慮 す る な ど 、 だ れ も が 一 緒 に 遊 べ る ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン に 配 慮 す る	視 覚 障 害 者 誘 導 用 （ 点 字 ） ブ ロ ッ ク を 整 備 す る	車 い す の 方 な ど に 配 慮 し た 、 障 害 者 用 の 駐 車 ス ペ ー ス を 整 備 す る	視 覚 障 害 者 用 ガ イ ド ヘ ル プ （ 目 の 不 自 由 な 方 を 案 内 し た り 誘 導 し た り す る 人 ） を 配 置 す る	障 害 の あ る 子 供 も な い 子 供 も 、 だ れ も が 一 緒 に 遊 べ る ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン 遊 具 を 整 備 す る	維 持 管 理 を 適 切 に 実 施 す る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (317)	46.7	42.9	29.7	29.3	7.3	6.3	9.8	2.5	18.0	26.8	5.0	9.5
男	100.0 (155)	<u>49.7</u>	45.2	32.9	25.2	9.0	7.7	12.3	1.9	<u>12.9</u>	26.5	3.9	9.0
39歳以下	100.0 (22)	54.5	27.3	40.9	50.0	9.1	4.5	9.1	－	13.6	27.3	4.5	9.1
40～49歳	100.0 (25)	40.0	48.0	24.0	24.0	4.0	8.0	12.0	－	12.0	24.0	8.0	4.0
50～59歳	100.0 (22)	36.4	31.8	18.2	22.7	13.6	13.6	4.5	－	27.3	18.2	9.1	13.6
60～69歳	100.0 (19)	52.6	47.4	52.6	26.3	5.3	5.3	10.5	5.3	15.8	15.8	－	5.3
70～79歳	100.0 (42)	54.8	45.2	28.6	19.0	9.5	7.1	26.2	4.8	7.1	33.3	2.4	11.9
80歳以上	100.0 (25)	56.0	68.0	40.0	16.0	12.0	8.0	－	－	8.0	32.0	－	8.0
(再掲)65歳以上	100.0 (78)	55.1	52.6	32.1	17.9	10.3	6.4	16.7	3.8	7.7	30.8	1.3	10.3
女	100.0 (162)	<u>43.8</u>	40.7	26.5	33.3	5.6	4.9	7.4	3.1	<u>22.8</u>	27.2	6.2	9.9
39歳以下	100.0 (29)	51.7	20.7	17.2	58.6	－	－	－	－	24.1	20.7	3.4	13.8
40～49歳	100.0 (29)	27.6	37.9	20.7	37.9	－	6.9	－	3.4	27.6	20.7	17.2	20.7
50～59歳	100.0 (20)	50.0	25.0	35.0	30.0	－	－	10.0	10.0	15.0	45.0	5.0	10.0
60～69歳	100.0 (26)	53.8	11.5	26.9	34.6	3.8	11.5	15.4	－	30.8	19.2	11.5	11.5
70～79歳	100.0 (33)	39.4	69.7	36.4	21.2	18.2	6.1	6.1	6.1	24.2	33.3	－	－
80歳以上	100.0 (25)	44.0	72.0	24.0	16.0	8.0	4.0	16.0	－	12.0	28.0	－	4.0
(再掲)65歳以上	100.0 (70)	41.4	61.4	31.4	20.0	12.9	5.7	11.4	2.9	21.4	28.6	1.4	4.3

イ 公園で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－外出時グループ別

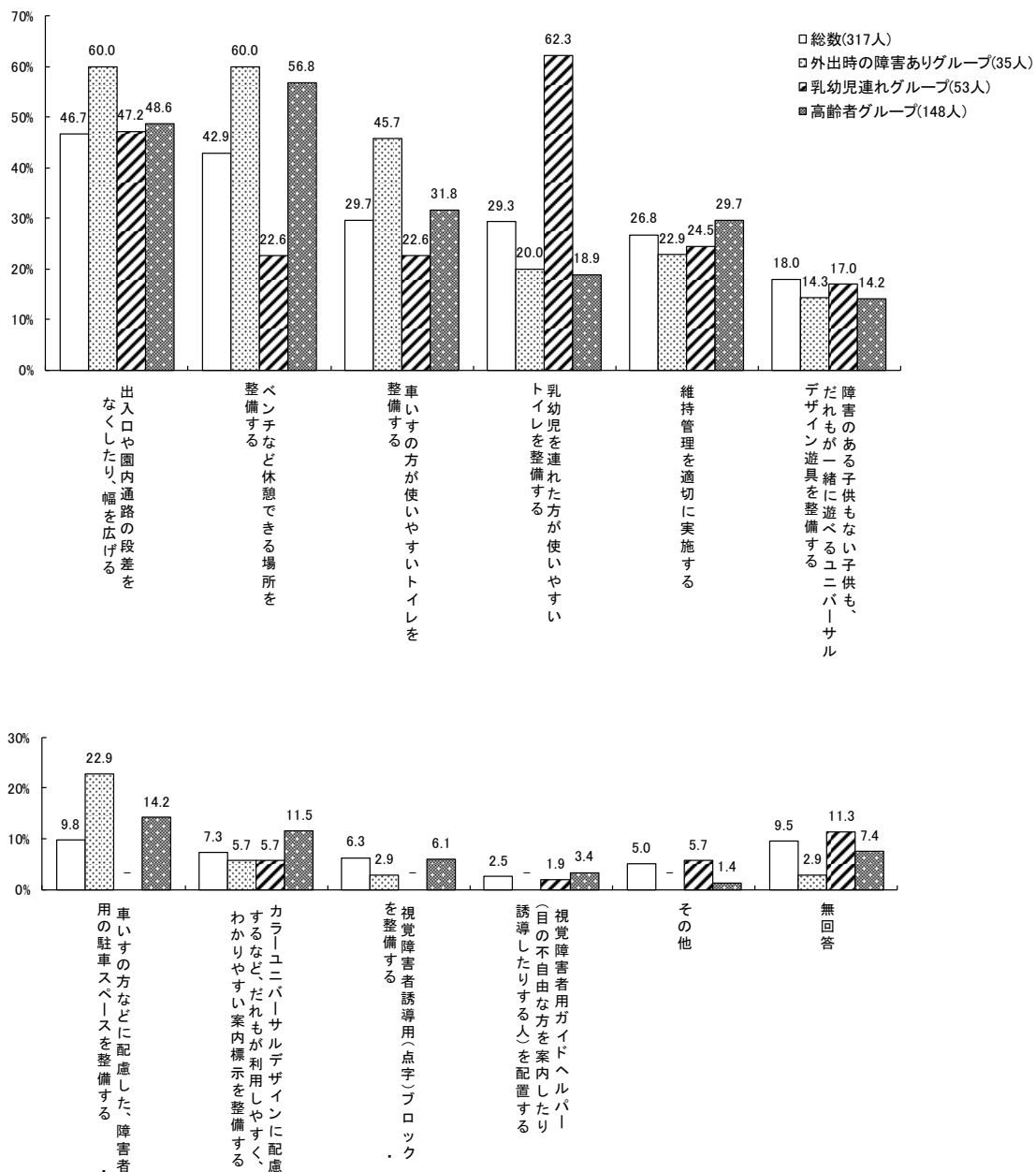
乳幼児連れグループは、「乳幼児を連れた方が使いやすいトイレを整備する」の割合が、62.3%

公園で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループでは、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合がどちらも60.0%で最も高くなっている。

乳幼児連れグループでは、「乳幼児を連れた方が使いやすいトイレを整備する」が62.3%で最も高く、総数（29.3%）に比べて33.0ポイント高くなっている。

高齢者グループでは、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」が56.8%で最も高く、総数（42.9%）に比べて13.9ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-13）

図Ⅱ-2-13 公園で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕－外出時グループ別



ウ 公園で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」の割合が最も高い

公園で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、肢体に障害がある人では、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合がどちらも 60.9%で最も高くなっている。次いで、「車いすの方が使いやすいトイレを整備する」がともに 39.1%となっている。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」の割合が 62.1%で最も高く、総数 (46.7%) に比べて 15.4 ポイント高くなっている。
(表Ⅱ-2-12)

表Ⅱ-2-12 公園で整備が必要なこと〔3つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

		総数	出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる	ベンチなど休憩できる場所を整備する	車いすの方が使いやすいトイレを整備する	乳幼児を連れての方が使いやすいトイレを整備する	カラーユニバーサルデザインに配慮するなど、だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	車いすの方などに配慮した、障害者用の駐車スペースを整備する	視覚障害者用ガイドヘルパー（目の不自由な方を案内したり誘導したりする人）を配置する	障害のある子供もいない子供も、だれもと一緒に遊べるユニバーサルデザイン遊具を整備する	維持管理を適切に実施する	その他	無回答
総数		100.0 (317)	46.7	42.9	29.7	29.3	7.3	6.3	9.8	2.5	18.0	26.8	5.0	9.5
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (35)	60.0	60.0	45.7	20.0	5.7	2.9	22.9	-	14.3	22.9	-	2.9
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (10)	50.0	60.0	60.0	40.0	-	-	20.0	-	20.0	20.0	-	-
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (23)	60.9	60.9	39.1	13.0	4.3	4.3	30.4	-	17.4	26.1	-	4.3
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (14)	42.9	57.1	42.9	14.3	14.3	7.1	21.4	-	21.4	14.3	-	-
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (11)	63.6	63.6	36.4	9.1	-	9.1	18.2	-	18.2	36.4	-	-
	外出時に障害がない	100.0 (279)	44.8	40.5	27.6	30.5	7.5	6.8	8.2	2.9	18.6	27.2	5.7	10.4
の由外に必要とする理由の解	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (29)	62.1	48.3	34.5	20.7	3.4	6.9	17.2	-	13.8	31.0	-	6.9
	必要としない	100.0 (280)	45.0	41.4	29.3	29.6	7.9	6.4	9.3	2.9	18.9	26.1	5.7	10.0

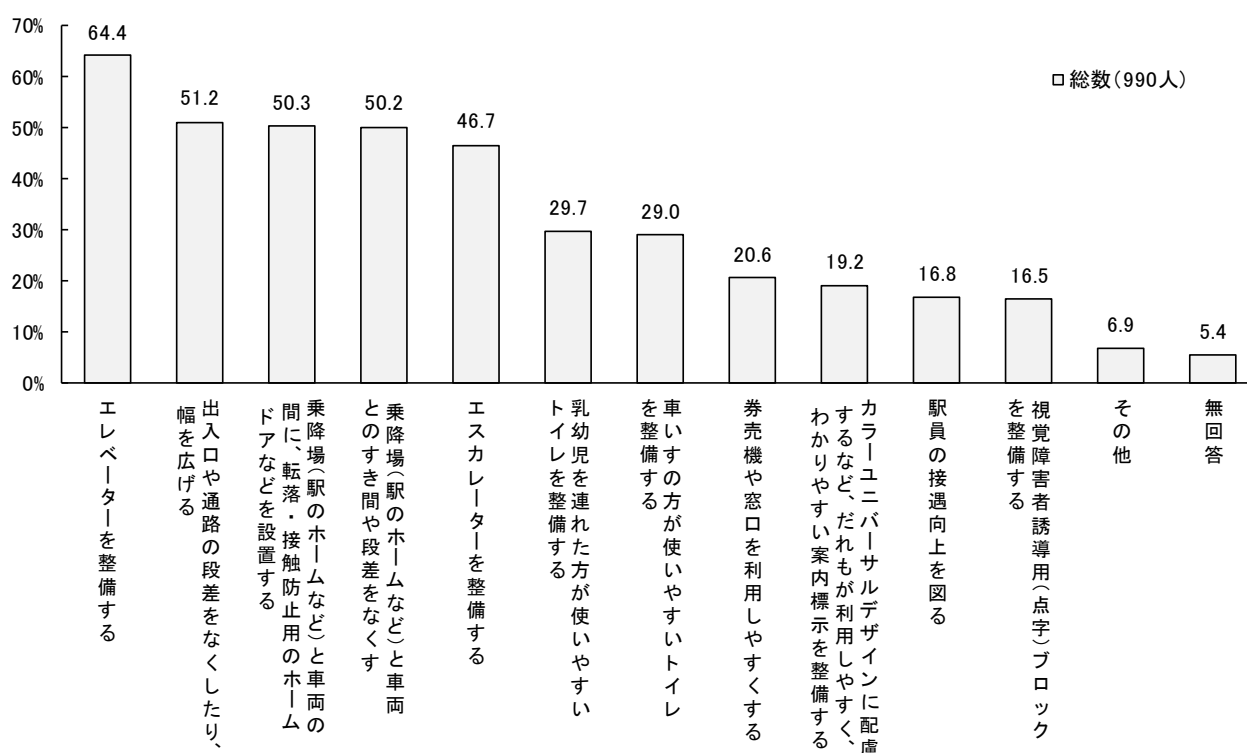
(注1) 外出時の障害別のうち、「視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」は母数が少数のため、省略した。

(7) 鉄道の駅で整備が必要なこと〔複数回答〕

「エレベーターを整備する」の割合が最も高く、6割超

鉄道の駅や電車の車両でバリアを感じるところが「ある」人（990人）に、鉄道の駅を利用しやすくするためにどのような整備・対応が必要か聞いたところ、「エレベーターを整備する」の割合が64.4%で最も高く、次いで「出入口や通路の段差をなくしたり、幅を広げる」が51.2%、「乗降場（駅のホームなど）と車両の間に、転落・接触防止用のホームドアなどを設置する」が50.3%、「乗降場（駅のホームなど）と車両とのすき間や段差をなくす」が50.2%となっている。（図Ⅱ-2-14）

図Ⅱ-2-14 鉄道の駅で整備が必要なこと〔複数回答〕



ア 鉄道の駅で整備が必要なこと〔複数回答〕一性・年齢階級別

男女ともに「エレベーターを整備する」の割合が最も高く、男性 58.6%、女性 68.6%

鉄道の駅で整備が必要なことを性別にみると、男女ともに「エレベーターを整備する」の割合が最も高く（男性 58.5%、女性 68.6%）、次いで、男性では「乗降場（駅のホームなど）と車両の間に、転落・接触防止用のホームドアなどを設置する」が 53.1%、女性では「乗降場（駅のホームなど）と車両とのすき間や段差をなくす」が 53.9%となっている。

性・年齢階級別にみると「エレベーターを整備する」の割合は、40 代男性で 70.1%、30 代女性で 82.4%がそれぞれ最も高くなっている。（表Ⅱ-2-13）

表Ⅱ-2-13 鉄道の駅で整備が必要なこと〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総 数	幅 出 入 口 や 通 路 の 段 差 を なく した り、	エ レ ベ ー タ ー を 整 備 す る	エ ス カ レ ー タ ー を 整 備 す る	車 い す の 方 が 使 い や す い ト イ レ を	乳 幼 児 を 連 れ た 方 が 使 い や す い ト イ レ	カ ラ ー ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン に 配 慮 す る な ど、 だ れ も が 利 用 し や す く 、 わ か り や す い 案 内 標 示 を 整 備 す る	視 覚 障 害 者 誘 導 用 （ 点 字 ） ブ ロ ッ ク を 整 備 す る	券 売 機 や 窓 口 を 利 用 し や す く す る	乗 降 場 （ 駅 の ホ ー ム な ど ） と 車 両 の す き 間 や 段 差 を なく す	乗 降 場 （ 駅 の ホ ー ム な ど ） と 車 両 の 間 に 、 転 落 ・ 接 触 防 止 用 の ホ ー ム ド ア な ど を 設 置 す る	駅 員 の 接 遇 向 上 を 図 る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (990)	51.2	64.4	46.7	29.0	29.7	19.2	16.5	20.6	50.2	50.3	16.8	6.9	5.4
男	100.0 (405)	52.3	58.5	45.4	30.9	28.1	20.5	17.5	21.5	45.2	53.1	17.8	6.7	5.7
20～29歳	100.0 (14)	64.3	57.1	42.9	28.6	21.4	-	14.3	21.4	50.0	57.1	14.3	14.3	7.1
30～39歳	100.0 (52)	63.5	69.2	42.3	26.9	50.0	17.3	13.5	23.1	44.2	44.2	23.1	7.7	-
40～49歳	100.0 (67)	47.8	70.1	43.3	25.4	29.9	22.4	19.4	16.4	50.7	49.3	17.9	9.0	3.0
50～59歳	100.0 (86)	51.2	54.7	47.7	24.4	22.1	19.8	12.8	19.8	44.2	53.5	14.0	4.7	-
60～69歳	100.0 (59)	57.6	61.0	57.6	44.1	27.1	28.8	18.6	27.1	45.8	59.3	13.6	8.5	3.4
70～79歳	100.0 (93)	47.3	51.6	39.8	37.6	29.0	17.2	22.6	22.6	44.1	57.0	19.4	5.4	14.0
80歳以上	100.0 (34)	47.1	44.1	44.1	23.5	8.8	26.5	17.6	20.6	38.2	50.0	23.5	2.9	14.7
（再掲）65歳以上	100.0 (151)	47.7	49.0	41.7	35.8	22.5	21.2	21.2	23.8	41.1	55.6	19.2	5.3	12.6
女	100.0 (583)	50.6	68.6	47.3	27.8	30.9	18.4	15.8	20.1	53.9	48.5	16.1	7.0	5.1
20～29歳	100.0 (46)	50.0	69.6	52.2	34.8	37.0	15.2	13.0	17.4	50.0	50.0	13.0	8.7	6.5
30～39歳	100.0 (85)	43.5	82.4	41.2	15.3	57.6	9.4	10.6	16.5	57.6	44.7	8.2	10.6	3.5
40～49歳	100.0 (101)	52.5	69.3	49.5	23.8	26.7	21.8	17.8	17.8	51.5	51.5	12.9	7.9	4.0
50～59歳	100.0 (107)	51.4	64.5	43.9	31.8	25.2	18.7	15.0	14.0	51.4	43.9	22.4	9.3	3.7
60～69歳	100.0 (86)	57.0	73.3	45.3	33.7	34.9	25.6	19.8	23.3	50.0	54.7	12.8	3.5	2.3
70～79歳	100.0 (94)	54.3	60.6	43.6	29.8	20.2	20.2	17.0	23.4	58.5	54.3	17.0	5.3	10.6
80歳以上	100.0 (64)	42.2	60.9	62.5	28.1	17.2	14.1	15.6	31.3	57.8	39.1	26.6	3.1	6.3
（再掲）65歳以上	100.0 (195)	51.8	63.1	52.8	29.7	21.5	21.0	17.9	26.7	55.9	49.2	20.0	4.6	7.7

イ 鉄道の駅で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別

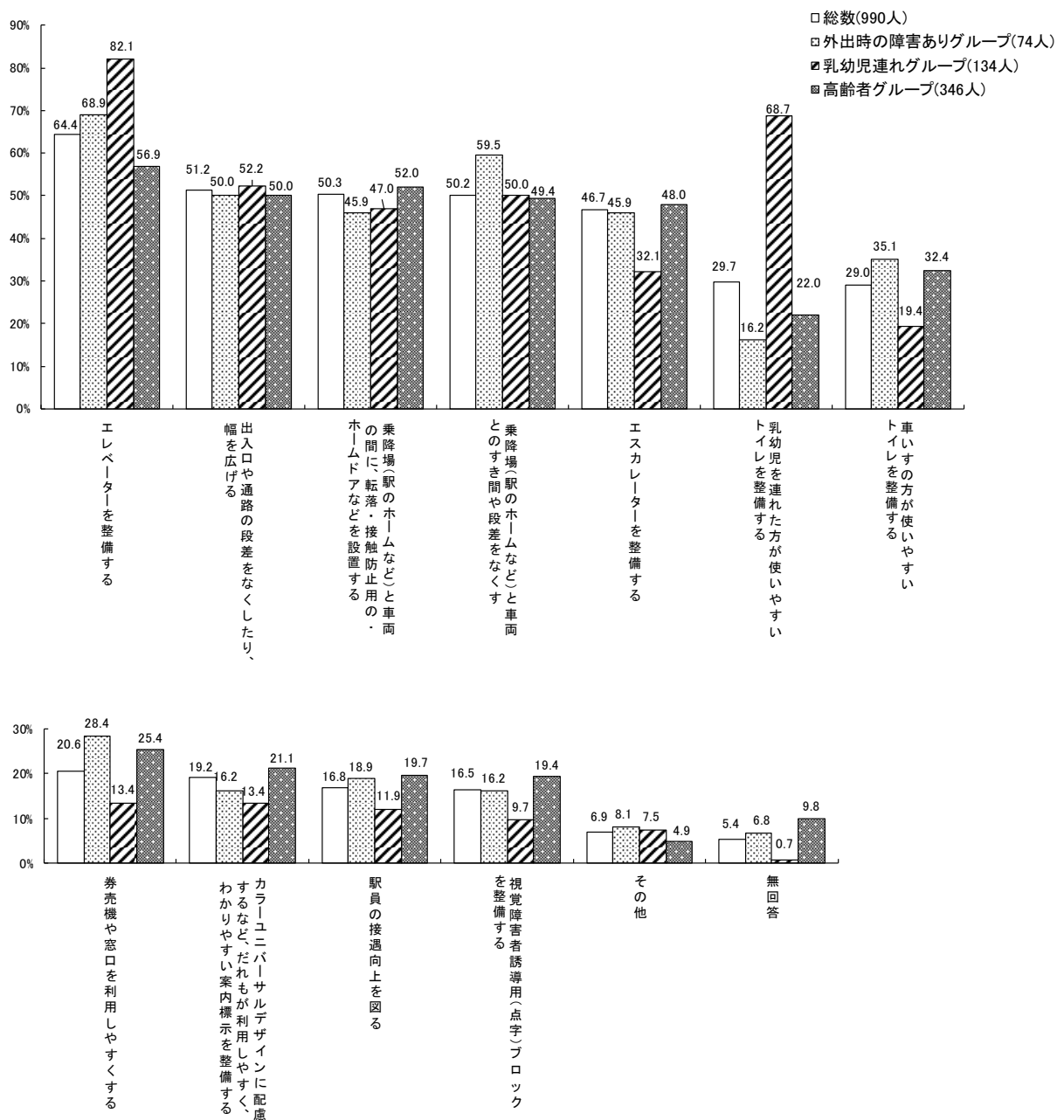
すべてのグループにおいて、「エレベーターを整備する」の割合が最も高い

鉄道の駅で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、すべてのグループにおいて、「エレベーターを整備する」の割合が最も高くなっている（56.9%～82.1%）。

外出時の障害ありグループは、「乗降場（駅のホームなど）と車両とのすき間や段差をなくす」の割合が59.5%と、総数（50.2%）に比べて9.3ポイント高くなっている。

乳幼児連れグループは、「乳幼児を連れた方が使いやすいトイレを整備する」が68.7%と総数（29.7%）に比べて39.0ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-15）

図Ⅱ-2-15 鉄道の駅で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別



一外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

鉄道の駅で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、すべての障害において、「エレベーターを整備する」の割合が最も高くなっている（67.4%～84.6%）。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「エレベーターを整備する」の割合が 60.9%で最も高く、次いで「乗降場（駅のホームなど）と車両とのすき間や段差をなくす」が 51.6%となっている。（表Ⅱ-2-14）

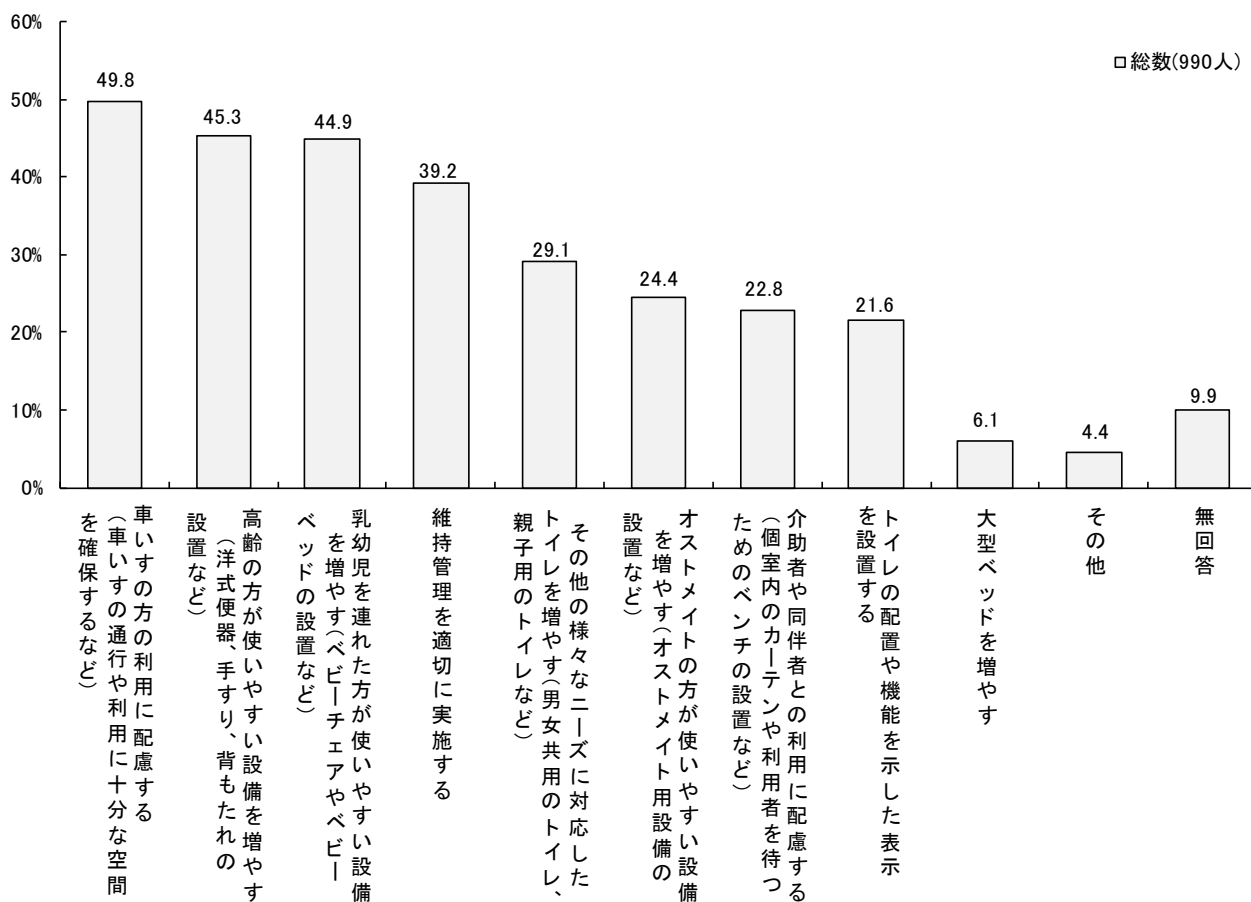
一外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

– 129 –

(8) 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕

鉄道の駅や電車の車両でバリアを感じるところが「ある」人（990 人）に、鉄道の駅のトイレにおいてどのような設備・対応が必要だと思うか聞いたところ、「車いすの方の利用に配慮する（車いすの通行や利用に十分な空間を確保するなど）」の割合が 49.8%で最も高く、次いで「高齢の方が使いやすい設備を増やす（洋式便器、手すり、背もたれの設置など）」が 45.3%、「乳幼児を連れた方が使いやすい設備を増やす（ベビーチェアやベビーベッドの設置など）」が 44.9%となっている。（図Ⅱ-2-16）

図Ⅱ-2-16 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕



ア 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともに「車いすの方の利用に配慮する」の割合が最も高い

鉄道の駅のトイレで整備が必要なことを性別でみると、男女ともに「車いすの方の利用に配慮する（車いすの通行や利用に十分な空間を確保するなど）」が最も高く（男性 49.4%、女性 50.3%）、次いで、男性では「高齢の方が使いやすい設備を増やす（洋式便器、手すり、背もたれの設置など）」が 42.7%、女性では「乳幼児を連れた方が使いやすい設備を増やす（ベビーカーやベビーベッドの設置など）」が 48.0%となっている。（表Ⅱ-2-15）

表Ⅱ-2-15 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総 数	車いすの方の通行や利用に十分な空間を確保するなど）	乳幼児を連れた方が使いやすい設備 ベッドの設置など）	オストメイトの方が使いやすい設備 を増やす（オストメイト用設備の 設置など）	高齢の方が使いやすい設備を増やす （洋式便器、手すり、背もたれの 設置など）	大型 ベッドを増やす	介助者や同伴者との利用に配慮する ためのベンチの設置など）	親子用のトイレなど）	その他の様々なニーズに対応したレ、 トイレを増やす（男女共用のトイレ、 多機能トイレなど）	トイレの配置や機能を示した表示 を設置する	維持管理を適切に実施する	その他	無 回 答
総数	100.0 (990)	49.8	44.9	24.4	45.3	6.1	22.8	29.1	21.6	39.2	4.4	9.9	
男	100.0 (405)	<u>49.4</u>	40.7	22.7	<u>42.7</u>	6.2	24.4	27.9	22.2	41.2	4.0	9.6	
20～29歳	100.0 (14)	42.9	57.1	28.6	21.4	7.1	35.7	42.9	21.4	42.9	－	7.1	
30～39歳	100.0 (52)	53.8	71.2	19.2	32.7	7.7	17.3	38.5	21.2	46.2	9.6	3.8	
40～49歳	100.0 (67)	43.3	43.3	20.9	35.8	3.0	16.4	29.9	23.9	40.3	6.0	6.0	
50～59歳	100.0 (86)	40.7	34.9	19.8	33.7	8.1	26.7	29.1	17.4	48.8	4.7	7.0	
60～69歳	100.0 (59)	52.5	30.5	25.4	47.5	6.8	33.9	25.4	23.7	42.4	1.7	11.9	
70～79歳	100.0 (93)	61.3	35.5	29.0	51.6	6.5	26.9	25.8	28.0	35.5	2.2	12.9	
80歳以上	100.0 (34)	41.2	29.4	14.7	70.6	2.9	17.6	8.8	14.7	29.4	－	20.6	
（再掲）65歳以上	100.0 (151)	55.0	32.5	24.5	53.6	5.3	25.2	21.2	25.8	33.1	2.0	15.2	
女	100.0 (583)	<u>50.3</u>	<u>48.0</u>	25.6	47.2	6.0	21.8	29.8	21.3	37.7	4.8	10.1	
20～29歳	100.0 (46)	54.3	50.0	28.3	30.4	4.3	19.6	28.3	15.2	41.3	4.3	13.0	
30～39歳	100.0 (85)	41.2	80.0	28.2	28.2	3.5	10.6	45.9	16.5	38.8	5.9	7.1	
40～49歳	100.0 (101)	60.4	52.5	33.7	41.6	7.9	25.7	37.6	21.8	39.6	7.9	5.0	
50～59歳	100.0 (107)	52.3	40.2	26.2	47.7	7.5	25.2	28.0	19.6	49.5	3.7	9.3	
60～69歳	100.0 (86)	47.7	47.7	24.4	58.1	9.3	26.7	32.6	23.3	31.4	2.3	5.8	
70～79歳	100.0 (94)	50.0	42.6	22.3	58.5	4.3	21.3	19.1	25.5	34.0	6.4	16.0	
80歳以上	100.0 (64)	43.8	18.8	12.5	60.9	3.1	20.3	12.5	25.0	25.0	1.6	18.8	
（再掲）65歳以上	100.0 (195)	48.2	36.4	21.0	60.0	5.6	24.1	20.5	26.2	32.8	4.1	14.9	

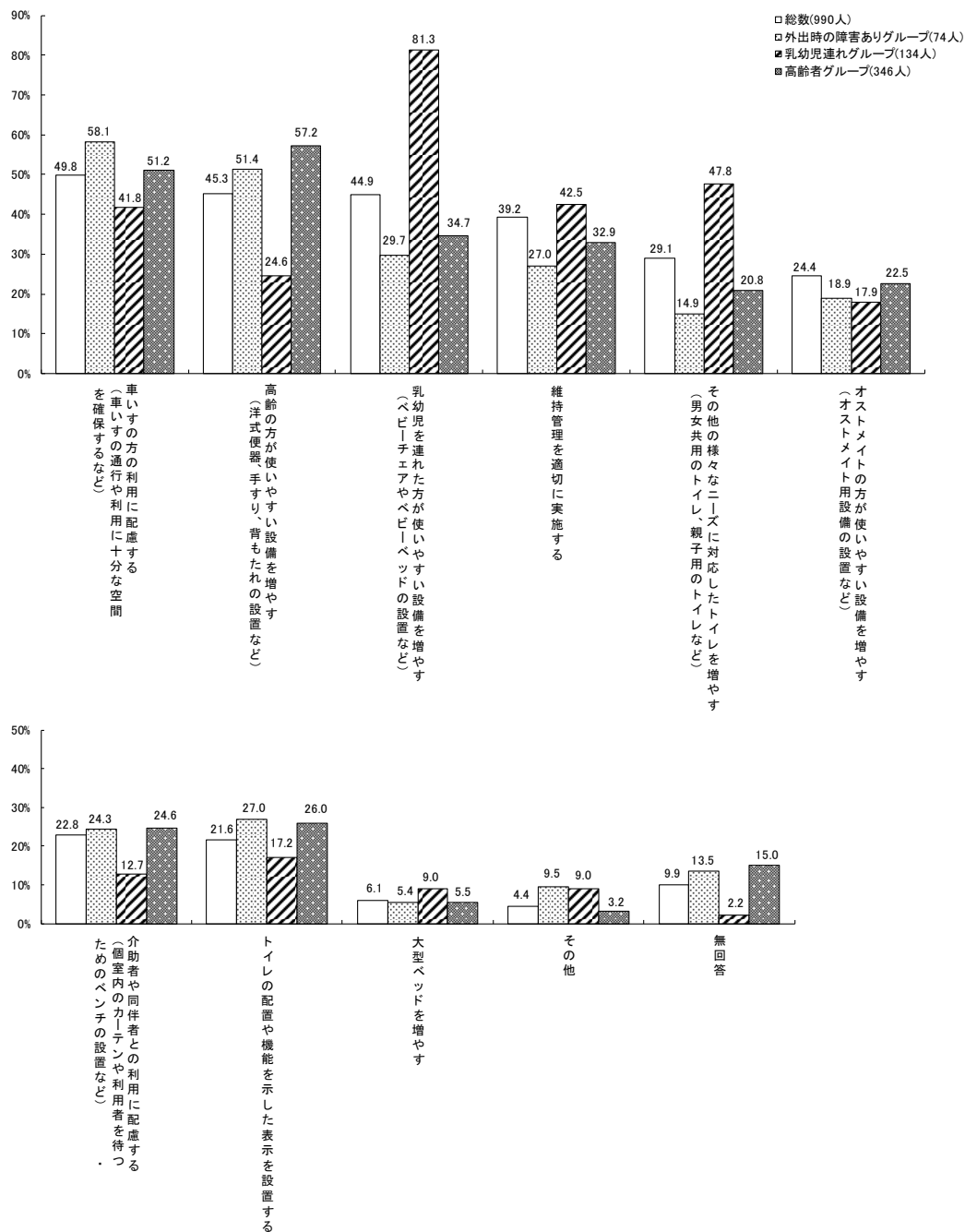
イ 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別

乳幼児連れグループは、「乳幼児を連れた方が使いやすい設備を増やす」の割合が最も高く、81.3%

鉄道の駅のトイレで整備が必要なことを外出時グループ別にみると、乳幼児連れグループは、「乳幼児を連れた方が使いやすい設備を増やす」が81.3%で、総数（44.9%）に比べて、36.4ポイント高くなっている。

高齢者グループは、「高齢の方が使いやすい設備を増やす」の割合が57.2%で、総数（45.3%）に比べて、11.9ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-17）

図Ⅱ-2-17 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別



ウ 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

体の内部の障害がある人では、すべての障害において、「介助者や同伴者との利用に配慮する」の割合が総数と比べて17.2ポイント高い

鉄道の駅のトイレで整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、体の内部に障害がある人では、「介助者や同伴者との利用に配慮する」の割合は、40.0%で総数（22.8%）と比べて17.2ポイント高くなっている。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「車いすの方の利用に配慮する」の割合が48.4%で最も高く、次いで「高齢の方が使いやすい設備を増やす」が40.6%となっている。（表Ⅱ-2-16）

表Ⅱ-2-16 鉄道の駅のトイレで整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

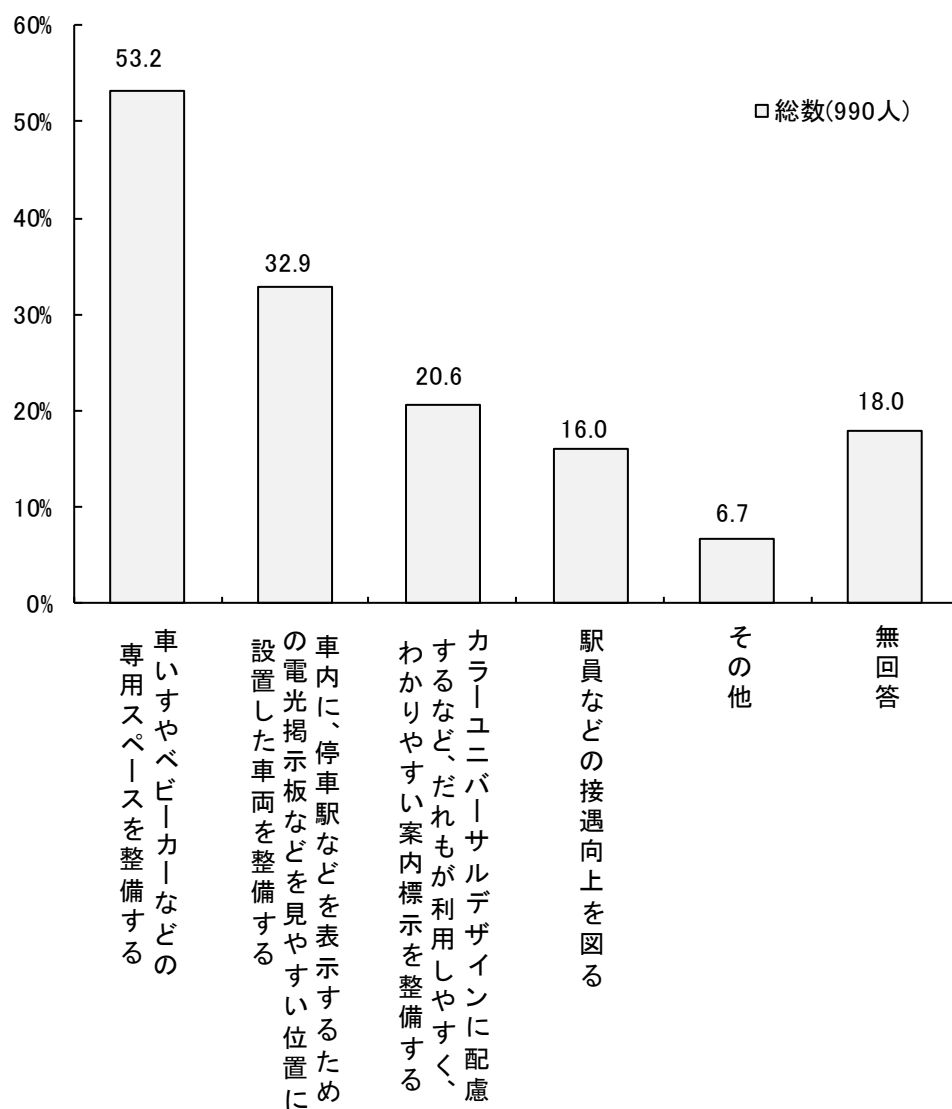
		総数	車いすの方の利用に配慮する（確保するなど）	乳幼児を連れた方が使いやすい設備を増やす（ベビーチェアやベビーカーなど）	オストメイトの方が使いやすい設備を増やす（オストメイト用設備の設置など）	高齢の方が使いやすい設備を増やす（洋式便器、手すり、背もたれなど）	大型ベッドを増やす	介助者や同伴者との利用に配慮するため個室のカーテンや利用を待つための室内のベンチの設置など	トイレ、親子用のトイレなど（男女共用のトイレを様々なニーズに対応した増やす）	トイレの配置や機能を示した表示を設置する	維持管理を適切に実施する	その他	無回答
総数		100.0 (990)	49.8	44.9	24.4	45.3	6.1	22.8	29.1	21.6	39.2	4.4	9.9
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (74)	58.1	29.7	18.9	51.4	5.4	24.3	14.9	27.0	27.0	9.5	13.5
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (10)	40.0	30.0	20.0	50.0	10.0	20.0	30.0	40.0	20.0	10.0	20.0
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (19)	63.2	42.1	26.3	47.4	-	10.5	10.5	36.8	36.8	21.1	5.3
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (46)	60.9	19.6	15.2	56.5	6.5	28.3	17.4	26.1	23.9	4.3	17.4
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (20)	65.0	35.0	20.0	55.0	15.0	<u>40.0</u>	20.0	35.0	25.0	10.0	10.0
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (26)	53.8	23.1	19.2	50.0	7.7	34.6	26.9	38.5	26.9	7.7	7.7
	外出時に障害がない	100.0 (906)	49.2	46.2	25.1	44.6	6.1	22.6	30.4	21.4	40.5	4.1	9.4
の由外 必に出 要する 性の何 の支 援や 無理 解	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (64)	<u>48.4</u>	26.6	17.2	<u>40.6</u>	4.7	23.4	23.4	25.0	21.9	12.5	18.8
	必要としない	100.0 (910)	50.3	46.6	25.1	45.8	6.3	22.7	29.8	21.6	40.8	3.7	8.8

(9) 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」の割合が最も高く、5割超

鉄道の駅や電車の車両でバリアを感じるところが「ある」人（990人）に、電車の車両を利用しやすくするためにどのような整備・対応が必要か聞いたところ、「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」の割合が53.2%で最も高く、次いで「車内に、停車駅などを表示するための電光掲示板などを見やすい位置に設置した車両を整備する」が32.9%となっている。（図Ⅱ-2-18）

図Ⅱ-2-18 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕



ア 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕一性・年齢階級別

男女ともに「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」の割合が最も高い

電車の車両で整備が必要なことを性別でみると、男女ともに「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」が最も高く（男性 53.8%、女性 53.0%）、次いで、「車内に、停車駅などを表示するための電光掲示板などを見やすい位置に設置した車両を整備する」となっている（男性 37.0%、女性 30.2%）。（表Ⅱ-2-17）

表Ⅱ-2-17 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕一性・年齢階級別

	総 数	設 置 電 車 内 に 光 に 掲 示 板 な ど を 整 備 す る	ス 車 い す や ベ ビ ー カ ー な ど の 専 用	わ す か り な い ユ ニ バ ー サ ル が 利 用 し や す く 配 慮	駅 員 な ど の 接 遇 向 上 を 図 る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (990)	32.9	53.2	20.6	16.0	6.7	18.0
男	100.0 (405)	37.0	53.8	19.8	17.0	4.9	16.3
20～29歳	100.0 (14)	28.6	64.3	21.4	7.1	7.1	14.3
30～39歳	100.0 (52)	26.9	65.4	15.4	9.6	1.9	21.2
40～49歳	100.0 (67)	29.9	53.7	13.4	19.4	10.4	11.9
50～59歳	100.0 (86)	38.4	54.7	20.9	17.4	4.7	10.5
60～69歳	100.0 (59)	35.6	52.5	27.1	15.3	6.8	16.9
70～79歳	100.0 (93)	40.9	55.9	23.7	16.1	3.2	19.4
80歳以上	100.0 (34)	58.8	26.5	11.8	32.4	—	23.5
(再掲)65歳以上	100.0 (151)	43.0	49.7	23.8	18.5	3.3	19.2
女	100.0 (583)	30.2	53.0	21.1	15.3	7.7	19.2
20～29歳	100.0 (46)	34.8	45.7	21.7	8.7	2.2	26.1
30～39歳	100.0 (85)	34.1	63.5	9.4	8.2	14.1	15.3
40～49歳	100.0 (101)	20.8	59.4	24.8	14.9	11.9	13.9
50～59歳	100.0 (107)	17.8	49.5	19.6	17.8	7.5	22.4
60～69歳	100.0 (86)	37.2	62.8	25.6	14.0	5.8	14.0
70～79歳	100.0 (94)	34.0	46.8	28.7	18.1	6.4	22.3
80歳以上	100.0 (64)	42.2	35.9	15.6	23.4	1.6	25.0
(再掲)65歳以上	100.0 (195)	40.0	45.6	24.6	19.0	5.1	21.0

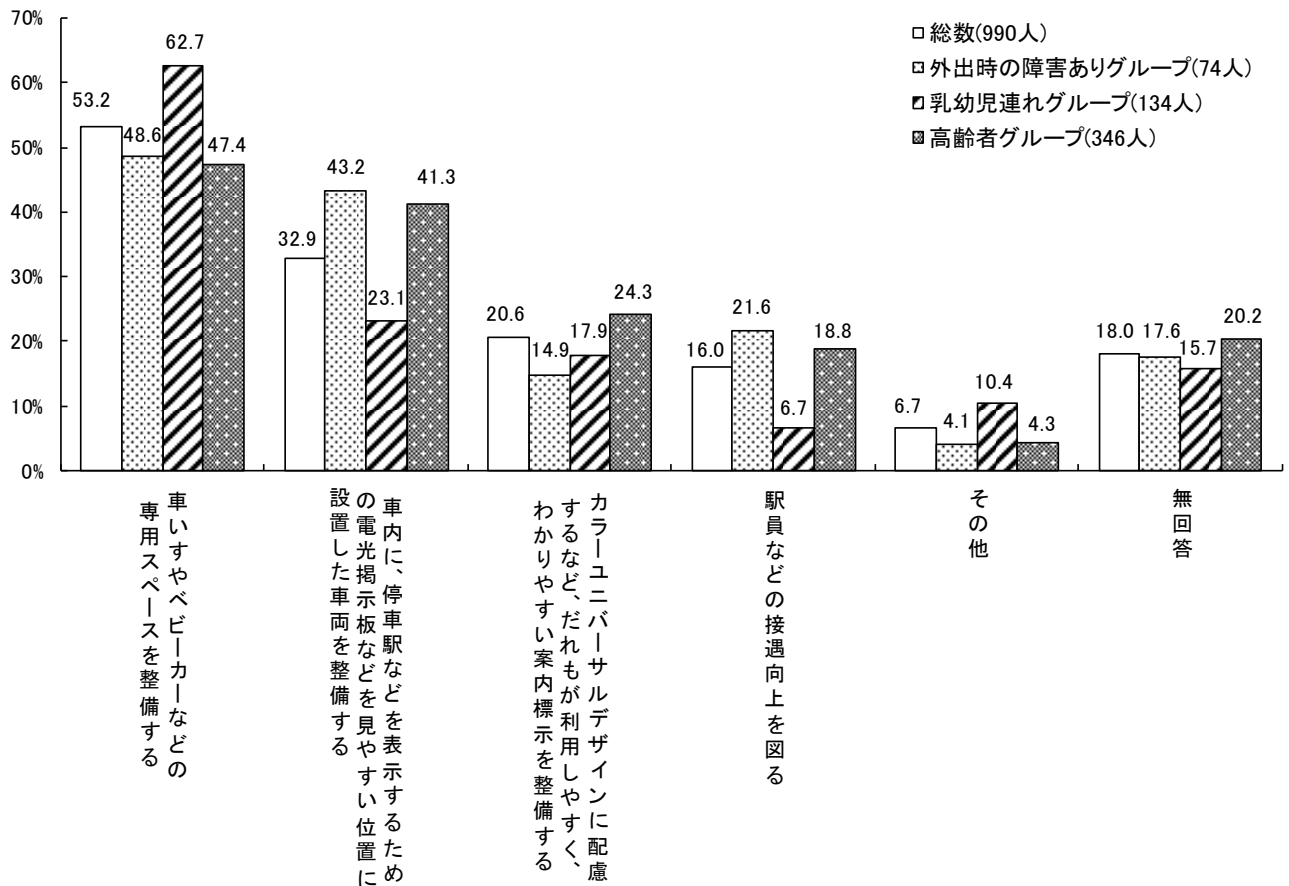
イ 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕－外出時グループ別

外出時の障害ありグループは、「車内に、停車駅などを表示するための電光掲示板などを見やすい位置に設置した車両を整備する」の割合が高く、総数と比べて 10.3 ポイント高い

電車の車両で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、乳幼児連れグループでは、「車いすやベビーカーなどの専用スペースの整備」が 62.7%で、総数（53.2%）に比べて、9.5 ポイント高くなっている。

外出時の障害ありグループ、高齢者グループでは、「車内に、停車駅などを表示するための電光掲示板などを見やすい位置に設置した車両を整備する」の割合がそれぞれ 43.2%、41.3%で、総数（32.9%）に比べて、10.3 ポイント、8.4 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-19）

図Ⅱ-2-19 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕－外出時グループ別



ウ 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

電車の車両で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、聴覚に障害がある人では、「車内に、停車駅などを表示するための電光掲示板などを見やすい位置に設置した車両を整備する」の割合が 57.9%で最も高く、次いで「駅員などの接遇向上を図る」が 36.8%となっている。また、それぞれ総数（32.9%、16.0%）と比べて 25.0 ポイント、20.8 ポイント高くなっている。

また、体の内部に障害がある人では、「車内に、停車駅などを表示するための電光掲示板などを見やすい位置に設置した車両を整備する」の割合が 50.0%で最も高く、次いで「カラーユニバーサルデザインに配慮するなど、だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する」が 35.0%となっている。また、それぞれ総数（32.9%、20.6%）と比べて 17.1 ポイント、14.4 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-2-18）

表Ⅱ-2-18 電車の車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

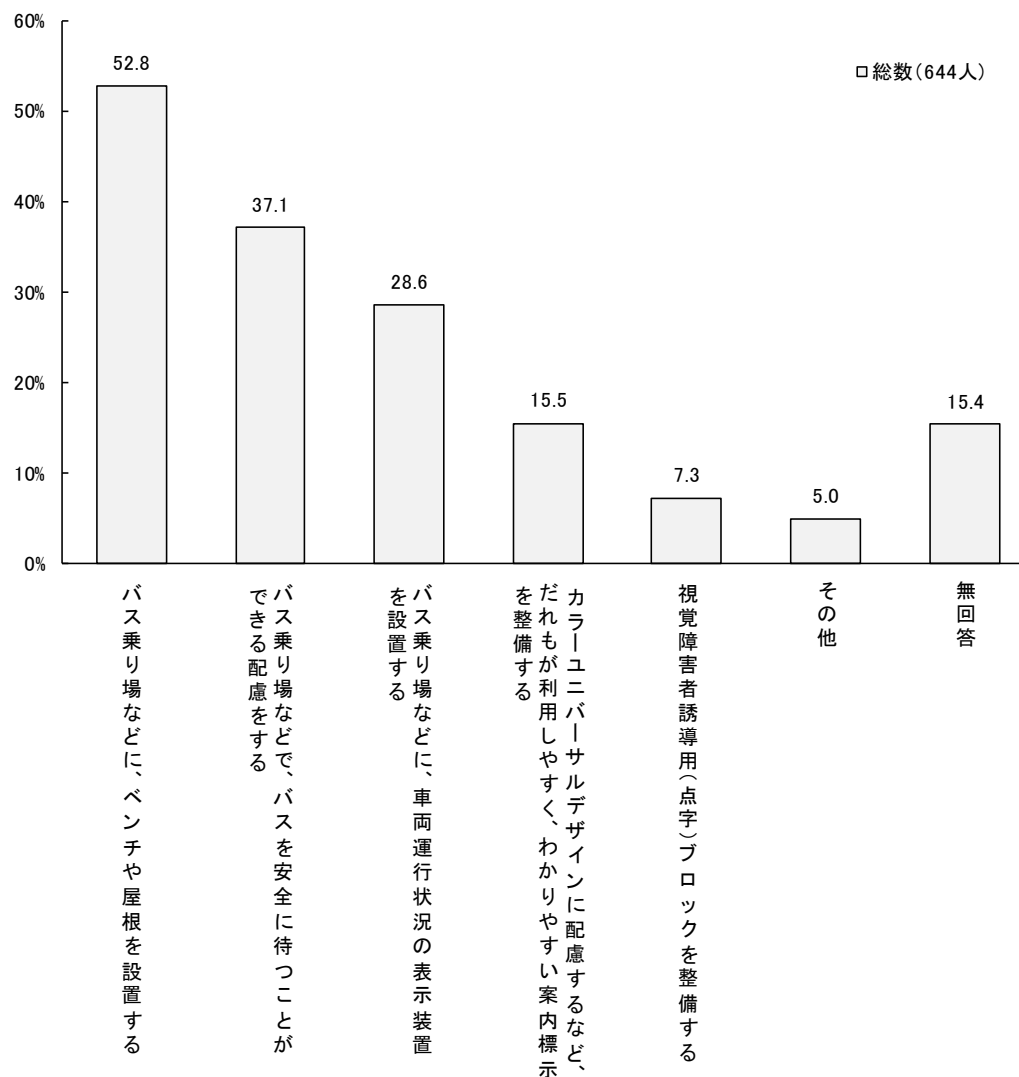
－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

		総数	設置した電光掲示板を車両を整備する	車内に、停車駅などを表示する位置に電光掲示板を備える	わかりやすい案内標示を整備する	カラーユニバーサルデザインに配慮する	駅員などの接遇向上を図る	その他	無回答
総数		100.0 (990)	32.9	53.2	20.6	16.0	6.7	18.0	
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (74)	43.2	48.6	14.9	21.6	4.1	17.6	
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (10)	30.0	30.0	20.0	30.0	-	30.0	
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (19)	57.9	42.1	10.5	36.8	5.3	10.5	
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (46)	37.0	52.2	15.2	21.7	2.2	17.4	
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (20)	50.0	55.0	35.0	15.0	-	10.0	
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (26)	38.5	50.0	19.2	15.4	3.8	15.4	
	外出時に障害がない	100.0 (906)	31.9	53.8	21.1	15.6	7.0	17.9	
の由外 必に出 要よ 時性 の支 何援 有ら 無や か理 別解 理	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (64)	40.6	40.6	12.5	18.8	7.8	21.9	
	必要としない	100.0 (910)	32.3	54.2	21.1	15.9	6.6	17.7	

(10) バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

バス乗り場やバスの車両でバリアを感じるところが「ある」人（644人）に、バス乗り場を利用しやすくするためにどのような整備・対応が必要か聞いたところ、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」の割合が52.8%で最も高く、次いで「バス乗り場などで、バスを安全に待つことができる配慮をする」が37.1%となっている。（図Ⅱ-2-20）

図Ⅱ-2-20 バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕



ア バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕一性・年齢階級別

男性 80 歳以上では「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」の割合が最も高く 68.6%

バス乗り場で整備が必要なことを性別でみると、男女ともに「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」が最も高く（男性 48.9%、女性 55.5%）、次いで、「バス乗り場などで、バスを安全に待つことができる配慮をする」となっている（男性 38.5%、女性 36.2%）。

性・年齢階級でみると、男性 80 歳以上ではバス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」が 68.6%で最も高く、総数（52.8%）と比べると、15.8 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-2-19）

表Ⅱ-2-19 バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	わかるかなど、イラストや案内標識を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロック	バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する	バス乗り場などに、車両運行状況の表示装置を設置する	バス乗り場などで配、慮をする安全に	その他	無回答
総数	100.0 (644)	15.5	7.3	<u>52.8</u>	28.6	37.1	5.0	15.4
男	100.0 (270)	14.8	9.6	<u>48.9</u>	29.3	<u>38.5</u>	4.8	14.1
20～29歳	100.0 (7)	—	14.3	57.1	14.3	14.3	—	14.3
30～39歳	100.0 (25)	12.0	—	36.0	36.0	44.0	8.0	16.0
40～49歳	100.0 (35)	11.4	5.7	40.0	28.6	48.6	17.1	5.7
50～59歳	100.0 (54)	25.9	9.3	46.3	31.5	38.9	3.7	11.1
60～69歳	100.0 (41)	12.2	12.2	48.8	34.1	36.6	4.9	19.5
70～79歳	100.0 (73)	15.1	13.7	49.3	21.9	43.8	—	16.4
80歳以上	100.0 (35)	8.6	8.6	<u>68.6</u>	34.3	20.0	2.9	14.3
(再掲)65歳以上	100.0 (130)	12.3	11.5	56.2	27.7	36.2	0.8	16.9
女	100.0 (373)	16.1	5.6	<u>55.5</u>	27.9	<u>36.2</u>	5.1	16.4
20～29歳	100.0 (19)	—	5.3	52.6	26.3	42.1	—	36.8
30～39歳	100.0 (45)	8.9	2.2	60.0	24.4	37.8	11.1	17.8
40～49歳	100.0 (65)	20.0	7.7	49.2	26.2	41.5	3.1	15.4
50～59歳	100.0 (65)	15.4	9.2	41.5	27.7	32.3	6.2	21.5
60～69歳	100.0 (47)	21.3	4.3	57.4	25.5	48.9	6.4	6.4
70～79歳	100.0 (76)	19.7	3.9	61.8	34.2	28.9	5.3	13.2
80歳以上	100.0 (56)	14.3	5.4	66.1	26.8	30.4	1.8	16.1
(再掲)65歳以上	100.0 (159)	17.6	4.4	63.5	29.6	33.3	4.4	12.6

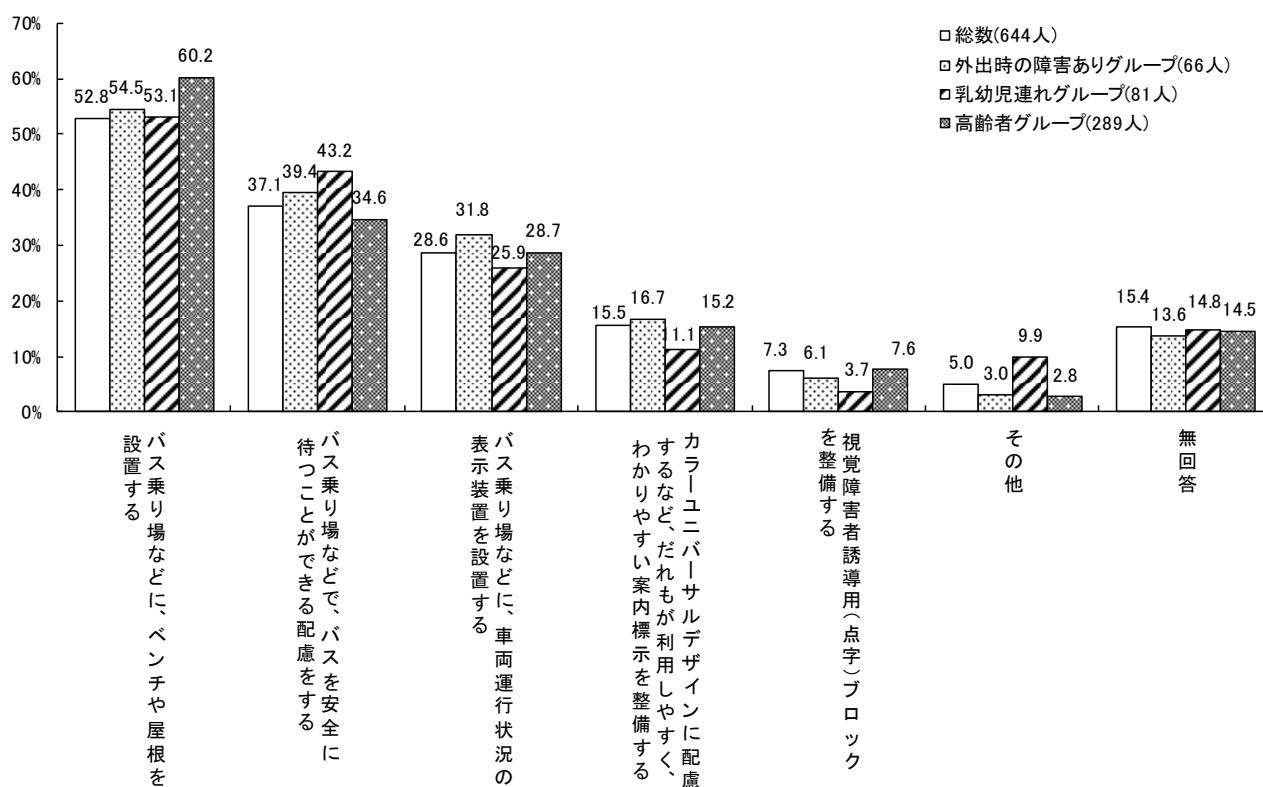
イ バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕－外出時グループ別

乳幼児連れグループでは、「バス乗り場などで、バスを安全に待つことができる配慮をする」が総数に比べて、6.1ポイント高くなっている。

バス乗り場で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、乳幼児連れグループでは、「バス乗り場などで、バスを安全に待つことができる配慮をする」が43.2%で、総数（37.1%）に比べて、6.1ポイント高くなっている。

高齢者グループでは、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」の割合が60.2%で、総数（52.8%）に比べて、7.4ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-21）

図Ⅱ-2-21 バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕－外出時グループ別



ウ バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

体の内部に障害がある人では、「バス乗り場などで、バスを安全に待つことができる配慮をする」の割合が最も高く、総数と比べて、18.5ポイント高くなっている。

バス乗り場で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、聴覚に障害がある人では、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」の割合が63.2%で最も高く、総数（52.8%）と比べて、10.4ポイント高くなっている。

また、体の内部に障害がある人では、「バス乗り場などで、バスを安全に待つことができる配慮をする」の割合が55.6%で、総数（37.1%）と比べて、18.5ポイント高くなっている。

外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「バス乗り場などに、車両運行状況の表示装置を設置する」の割合が38.2%で、総数（28.6%）と比べて、9.6ポイント高くなっている。

（表Ⅱ-2-22）

表Ⅱ-2-22 バス乗り場で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

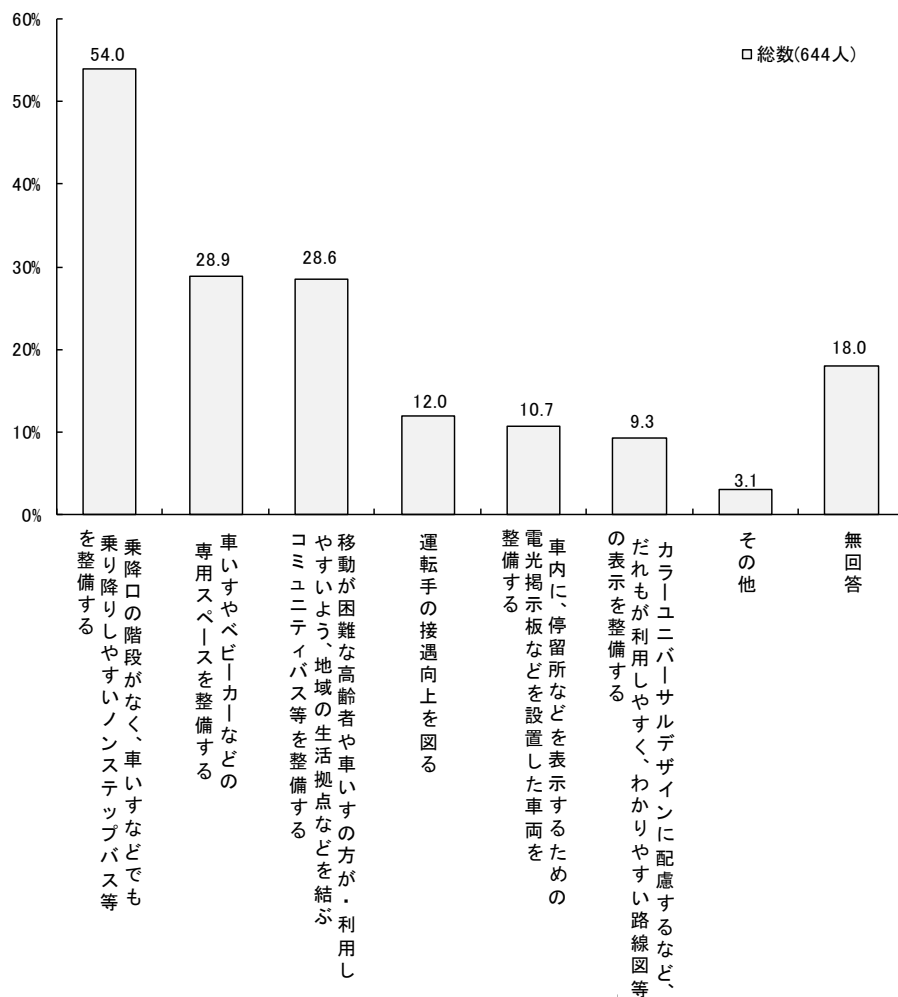
－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

		総数	わかるかなど、二いだれもサル標が利用しやすい配慮	視覚障害者誘導用（点字）ブロック	バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する	バス乗り場などに、車両運行状況の表示装置を設置する	バス乗り場などで、バスを安全に待つことができる配慮をする	その他	無回答
総数		100.0 (644)	15.5	7.3	<u>52.8</u>	<u>28.6</u>	<u>37.1</u>	5.0	15.4
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (66)	16.7	6.1	54.5	31.8	39.4	3.0	13.6
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (5)	20.0	20.0	60.0	—	80.0	—	—
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (19)	21.1	—	<u>63.2</u>	36.8	31.6	10.5	10.5
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (41)	9.8	7.3	56.1	29.3	46.3	2.4	12.2
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (18)	16.7	16.7	55.6	16.7	<u>55.6</u>	—	5.6
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (24)	8.3	8.3	54.2	25.0	41.7	—	16.7
	外出時に障害がない	100.0 (569)	15.3	7.4	52.7	28.1	37.3	5.3	15.3
の由外 必に出 要する 性の何 の支 援ら やか 別理 解理	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (55)	9.1	7.3	50.9	<u>38.2</u>	38.2	5.5	14.5
	必要としない	100.0 (578)	15.9	7.3	53.5	27.9	37.5	5.0	14.9

(11) バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

バス乗り場やバスの車両でバリアを感じるところが「ある」人（644人）に、バスの車両を利用しやすくするためにどのような整備・対応が必要か聞いたところ、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすいノンステップバス等を整備する」の割合が54.0%で最も高く、次いで「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」が28.9%、「移動が困難な高齢者や車いすの方が利用しやすいよう、地域の生活拠点などを結ぶコミュニティバス等を整備する」が28.6%となっている。（図Ⅱ-2-22）

図Ⅱ-2-22 バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕



ア バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕一性・年齢階級別

女性の30代では、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすいノンステップバス等を整備する」、「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」の割合が総数に比べて、20ポイント以上高くなっている。

バスの車両で整備が必要なことを性別でみると、男女ともに「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすいノンステップバス等を整備する」が最も高く（男性51.9%、女性55.8%）、次いで、男性では「移動が困難な高齢者や車いすの方が利用しやすいよう、地域の生活拠点などを結ぶコミュニティバス等を整備する」が30.7%、女性では「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」が29.8%となっている。

性・年齢階級別にみると、女性30代では、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすいノンステップバス等を整備する」、「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」の割合が、それぞれ75.6%、55.6%で、総数（54.0%、28.9%）に比べて、20ポイント以上高くなっている。（表Ⅱ-2-21）

表Ⅱ-2-21 バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすいノンステップバス等を整備する	乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすいノンステップバス等を整備する	車内に、停留所などを表示するための電光掲示板を設置した車両を整備する	車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する	移動が困難な高齢者や車いすの方が利用しやすいよう、地域の生活拠点などを結ぶコミュニティバス等を整備する	移動が困難な高齢者や車いすの方が利用しやすいよう、地域の生活拠点などを結ぶコミュニティバス等を整備する	運転手の接遇向上を図る	その他	無回答
総数	100.0 (644)	54.0	10.7	28.9	28.6	9.3	12.0	3.1	18.0	
男	100.0 (270)	51.9	11.1	27.8	30.7	9.6	11.1	1.9	18.9	
20～29歳	100.0 (7)	42.9	-	-	28.6	-	14.3	-	28.6	
30～39歳	100.0 (25)	52.0	8.0	40.0	16.0	8.0	12.0	4.0	16.0	
40～49歳	100.0 (35)	60.0	14.3	37.1	17.1	2.9	11.4	2.9	20.0	
50～59歳	100.0 (54)	46.3	14.8	27.8	27.8	14.8	13.0	3.7	14.8	
60～69歳	100.0 (41)	48.8	4.9	29.3	36.6	7.3	4.9	2.4	24.4	
70～79歳	100.0 (73)	56.2	12.3	24.7	34.2	11.0	13.7	-	19.2	
80歳以上	100.0 (35)	48.6	11.4	20.0	45.7	11.4	8.6	-	17.1	
(再掲)65歳以上	100.0 (130)	52.3	10.8	26.2	36.2	10.8	11.5	-	19.2	
女	100.0 (373)	55.8	10.5	29.8	26.8	9.1	12.6	4.0	17.4	
20～29歳	100.0 (19)	57.9	21.1	31.6	15.8	-	26.3	5.3	15.8	
30～39歳	100.0 (45)	75.6	11.1	55.6	6.7	2.2	4.4	4.4	11.1	
40～49歳	100.0 (65)	47.7	4.6	41.5	30.8	6.2	12.3	4.6	18.5	
50～59歳	100.0 (65)	52.3	9.2	24.6	24.6	10.8	16.9	6.2	18.5	
60～69歳	100.0 (47)	53.2	12.8	25.5	40.4	8.5	6.4	6.4	17.0	
70～79歳	100.0 (76)	55.3	10.5	23.7	27.6	14.5	7.9	2.6	19.7	
80歳以上	100.0 (56)	55.4	12.5	12.5	32.1	12.5	21.4	-	17.9	
(再掲)65歳以上	100.0 (159)	54.7	10.7	18.2	33.3	13.8	11.9	1.9	18.9	

イ バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕－外出時グループ別

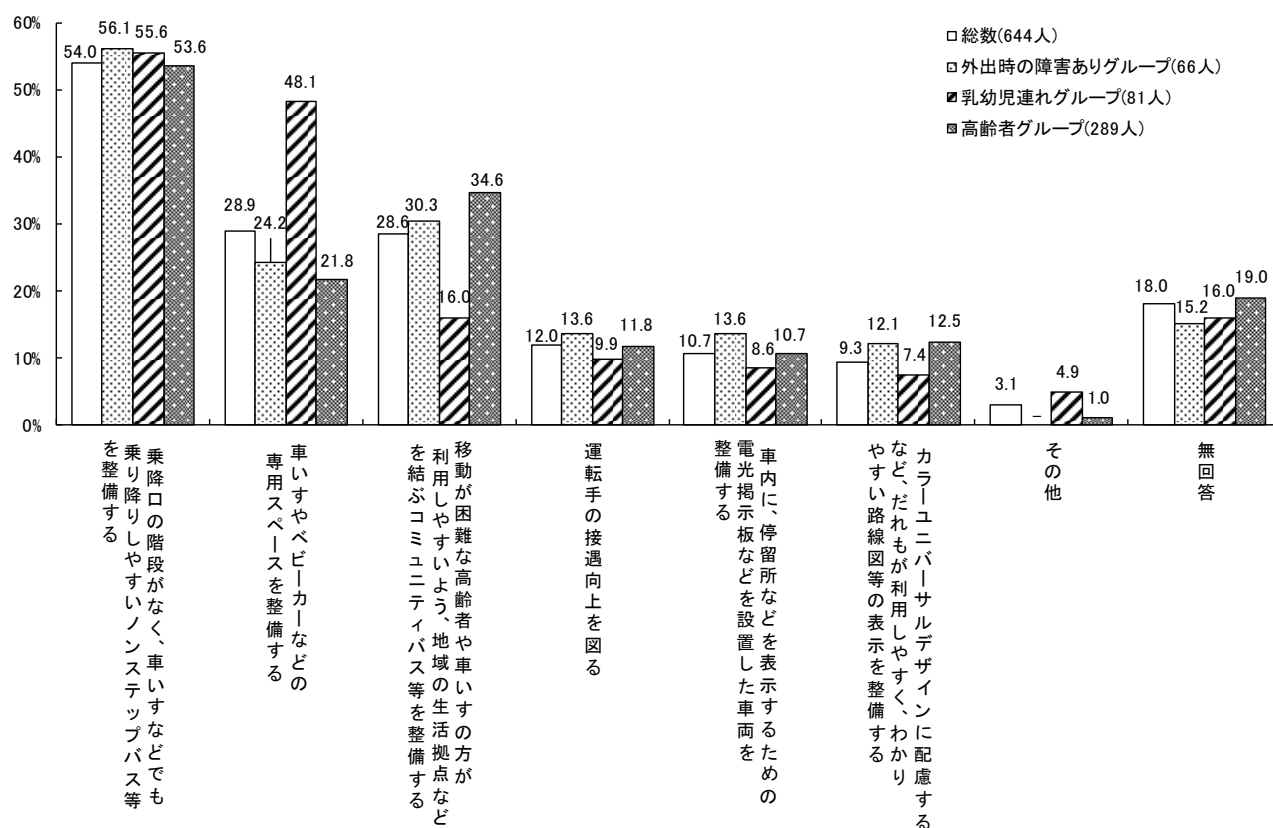
いずれのグループも、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい、ノンステップバスを整備する」の割合が最も高い

バスの車両で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、いずれのグループも、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい、ノンステップバスを整備する」の割合が最も高くなっている（53.6%～56.1%）。

乳幼児連れグループは、「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」が48.1%で、総数（28.9%）に比べて、19.2ポイント高くなっている。

高齢者グループは、「移動が困難な高齢者や車いすの方が利用しやすいよう、地域の生活拠点などを結ぶコミュニティバス等を整備する」の割合が34.6%で、総数（28.6%）に比べて、6.0ポイント高くなっている。（図Ⅱ-2-23）

図Ⅱ-2-23 バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕－外出時グループ別



ウ バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

すべての障害において、「ノンステップバスの整備」の割合が最も高い

バスの車両で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、聴覚に障害がある人では、「カラーユニバーサルデザインに配慮するなど、だれもが利用しやすく、わかりやすい路線図等の表示を整備する」の割合が21.1%で、総数（9.3%）と比べて、11.8ポイント高くなっている。

また、体の内部に障害がある人では、「移動が困難な高齢者や車いすの方が利用しやすいよう、地域の生活拠点などを結ぶコミュニティバス等を整備する」の割合が44.4%で、総数（28.6%）と比べて、15.8ポイント高くなっている。（表Ⅱ-2-22）

表Ⅱ-2-22 バスの車両で整備が必要なこと〔2つまでの複数回答〕

－外出時の障害の有無別、外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

		総数	乗降口の階段が なく、車いすなど でも整備する	乗降口の階段が なく、車いすなど でも整備する	電光掲示板などを 設置した車両を 整備する	車内、停留所など を表示するための 整備する	車いすやベビーカー などの専用スペース を整備する	移動が困難な高齢者 や車いすの方が利用 しやすいコミュニティ バス等を整備する	移動が困難な高齢者 や車いすの方が利用 しやすいコミュニティ バス等を整備する	など、だれもが利用し やすく、わかりやすい 路線図等の表示を整 備する	カラーユニバーサル デザインに配慮する	運転手の接遇向上を 図る	その他	無回答
総数		100.0 (644)	54.0	10.7	28.9	28.6	9.3	12.0	3.1	18.0				
外出時の障害別	外出時に何らかの障害がある	100.0 (66)	56.1	13.6	24.2	30.3	12.1	13.6	－	15.2				
	視覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (5)	100.0	20.0	－	40.0	－	－	－	－				
	聴覚に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (19)	47.4	15.8	26.3	31.6	21.1	15.8	－	10.5				
	肢体に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (41)	56.1	12.2	26.8	29.3	7.3	12.2	－	22.0				
	体の内部に障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (18)	55.6	22.2	16.7	44.4	22.2	11.1	－	11.1				
	その他障害があるため、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (24)	50.0	12.5	16.7	29.2	4.2	12.5	－	25.0				
	外出時に障害がない	100.0 (569)	53.6	10.4	29.5	28.5	9.0	11.8	3.3	18.3				
の由外 必に出 要性の 何らか の支援 や理解 の必要 性	何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (55)	49.1	9.1	29.1	25.5	9.1	12.7	1.8	21.8				
	必要としない	100.0 (578)	54.5	10.9	28.9	28.7	9.3	11.9	3.3	17.6				